

平成 22 年度は、博物館事業の基本となる合計 6 つの特別展、企画展、共催展や 10 のプラネタリウム番組の投映に加えて、教育普及活動としての学習支援展示や移動天文車派遣、はやぶさ帰還カプセルに関連した各種事業等を行いました。

展覧会については、「ひめゆり平和への祈り展」や「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」など幅広い世代を対象にしたものに加えて、当市の地場産業である萬古焼の魅力を伝える「江戸の文様 萬古の色展」、学習支援展示の拡大版として「なつかしい暮らし展」などを開催しました。

プラネタリウムについては、「ポケットモンスター」などの家族向け番組や、中学校と連携した自主制作番組「宵の明星『金星』のふしぎ」など、多くの方に天文の楽しさを伝えることに努めました。また、「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」では、7 年もの年月をかけて奇跡的な地球帰還を果たしたはやぶさの成果と感動を伝えることができました。

また当館では、学校教育への支援にも力を入れ、特に天文事業では、学校から見学に来てもらうだけでなく、博物館職員が学校へ出向いて行う「連携授業」を実施しています。中学校へは移動式プラネタリウム、小学校へは立体映像システムを使用して、学校での普通の授業では得られない体験を通して、学校教育がより豊かなものとなるよう努めてきました。

今後も博物館は、平成 17 年に策定した「四日市市立博物館の使命（基本理念）」に基づき、諸活動を行ってまいります。

※ なお、記載にあたっては、個人・団体の敬称は略させていただきます。ご了承ください。

平成 23 年 6 月  
四日市市立博物館



# 目 次

I	事業概要	
1	博物館事業	
1	常設展示	3
2	企画・特別展示	3
3	教育普及事業	7
4	資料収集事業	11
5	調査研究事業	14
2	プラネタリウム投映事業	
1	天文展示	15
2	投映活動	15
3	天文教育普及事業	20
II	管理・運営	
1	組織	24
2	予算	25
3	博物館協議会	26
4	施設の利用	26
5	年報の発行	28
6	利用状況	28
7	関係法規	30
III	施設概要	35
IV	利用案内	38

## I 事業概要

### 1 博物館事業

#### 1 常設展示

基本テーマ「伊勢湾と鈴鹿山脈のある四日市の文化と生活環境」をもとに、地質時代から現代までの四日市市及び北勢地域のあゆみを、「北勢地域のおいたちと自然環境」、「原始・古代の人びとの生活」、「四日市と四日市庭浦の成立」、「東海道と伊勢参宮道の賑わい」、「四日市港と近代産業の発展」、「戦災からの復興と都市の創造」の六つのテーマで構成し、その時代の特色を浮き立たせるよう工夫している。

コーナー展示では、戦前に東海地方有数の祭りであった「四日市祭」と、「浮世絵」に描かれた四日市の展示を行っている。

また、文化勲章受章作家で名誉市民の丹羽文雄の業績を永く伝えていくために、丹羽文雄記念室を平成18年12月9日に開館した。



平成22年度常設展示

開館日数 299日

観覧者数 24,479人

観覧料 無料

#### 2 企画・特別展示

本年度は、五つの展覧会と、共催事業として「第52回北勢地区高等学校美術展」を開催し、幅広い年代層に訴えることができた。

##### (1) 企画展1 「江戸の文様 萬古の色 うつわに込められた美と心」

[主催] 四日市市立博物館

[助成] (財)岡田文化財団、芸術文化振興基金

■会期：4月24日(土)～6月13日(日) 45日間

■観覧者数：1,728人

■観覧料：一般300円、高校大学生200円、中学生以下無料

■関連行事

○子ども博物館教室ワークショップ

「萬古焼に挑戦」

講師：苫米地正樹(陶芸家)

日時：5月22日(土)・23日(日) 10:00～12:00

参加者：22日：小中学生34人 保護者10人

23日：小中学生22人 保護者13人 幼児3人

(応募多数のため、急遽23日にも設定、焼成作品は6月5日から会期終了まで4階ロビーに展示)



■担当者所感(企画普及係 廣瀬毅)

館所蔵の萬古焼を展示する機会が少ないため、企画展として開催した。日本人が古くから持ち続けていた願いや祈りを言葉や文様に託すという心を、萬古焼に描かれた文様から探ることをテーマとした。特に萬古焼の特徴とされる更紗文様や龍を中心とした吉祥文様、伝統的な幾何学文様などの意味を解説した。焼物の見方の一つとして、文様を見ることの楽しさや、伝統的な文様の持つ意味などを考えることで、新たな発見や認識が生まれることを意図した。

ディスプレイについては既存のケースを使用したため、作品の位置が低すぎることや、照明が回りきらないため暗くて見えにくいという意見があった。今後の展示を考える際の改善点としたい。

## (2) 特別展1 「ひめゆり 平和への祈り[沖縄戦から65年]」

- [主催] 四日市市立博物館  
ひめゆり平和祈念資料館  
朝日新聞社  
[後援] 三重県教育委員会、沖縄タイムス社  
[助成] (財)岡田文化財団

- 会期：7月21日(水)～9月5日(日) 41日間  
■観覧者数：9,383人  
■観覧料：一般700円、高校大学生500円、中学生以下無料  
■関連行事

- 講演会「戦争体験をとおして平和を考える」  
講 師：宮城喜久子（ひめゆり平和祈念資料館副館長）  
場 所：じばさん三重 6階ホール  
日 時：8月7日（土）14:00～15:30  
参加者：253人  
日 時：8月8日（日）10:00～11:30  
参加者：265人

- 子ども博物館教室  
ワークショップ「平和について考えよう」  
講 師：野口 裕（当館指導主事）  
日 時：8月21日（土）10:00～12:00  
参加者：小中学生4人 保護者4人

### ■担当者所感（企画普及係 野口裕）

毎年夏になると「沖縄戦」「広島・長崎の原爆」「終戦記念日」などマスメディアを中心に多くの戦争に関連する情報が発信され、平和を考える機会を得ることができる。ただ、戦後65年が経過した現在の日本では「過去の人々のこと」と他人事のように感じてしまうことがないだろうか。「昔の人は戦争があって大変だったね」と平和すぎる日々を何も考えずに過ごしている戦争を知らない世代が増えてきてしまっているのではないだろうか。

もちろん、戦争がないということは素晴らしいことで、平和な暮らしができることに感謝しなければならないが、平和に暮らすことのできる私たちは何もなくていいというのではない。

その意味からも、今回の「ひめゆり 平和への祈り」展を開催するにあたり、博物館という社会教育施設の使命として「ひめゆりのメッセージ」を発信できた意義は大きかったと思われる。今後、地方の博物館が何を使命として発信していくのか、入館者が多く見込まれるものを数多く発信していればいいのか、など「社会教育施設」としてどうあるべきか考える機会にもなったのではないかと。

また、平和学習に関して夏休み期間であったということもあるが、学校教育との連携が十分には行えなかったところは、学習支援展示などとも関連させながら、今後の課題として考えなければならないと思われる。



## (3) 特別展2 「2010 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

- [主催] 四日市市立博物館・(社)日本国際児童図書評議会  
[共催] 中日新聞社  
[助成] (財)岡田文化財団  
[協力] ボローニャ・ブックフェア  
子どもの本専門店「メリーゴーランド」

- 会期：10月2日(土)～10月31日(日) 26日間



- 観覧者数：5,178人
- 観覧料：一般700円、高校大学生500円、中学生以下無料
- 関連行事

○子ども博物館教室「絵本をつくろう！」

日 時：10月9日（土）10:00～12:00  
 講 師：野口裕（当館指導主事）  
 参加者：小学生10人、保護者2人、幼児1人

○子どものためのワークショップ

「あべ弘士さんとどうぶつをつくろう！」

日 時：10月11日（月・祝）10:00～12:00  
 講 師：あべ弘士（絵本作家）  
 増田喜昭（子どもの本専門店  
 「メリーゴーランド」店主）  
 参加者：小学生26人、保護者19人

○講演会「あべ弘士さんの動物に会う方法」

日 時：10月11日（月・祝）14:00～16:00  
 講 師：あべ弘士（絵本作家）  
 増田喜昭（子どもの本専門店  
 「メリーゴーランド」店主）  
 参加者：一般40人



■ 担当者所感（企画普及係 野口裕）

今回は、5,000人を越える入館者を会期中に迎えることができた。アンケート結果から、学校でのポスター掲示やチラシ配布で知ったが18%、広報よっかいちが9%であった。今回も四日市市内だけでなく鈴鹿、桑名、いなべ市内の小中学校には全員配布をしたが、その成果であろう。次に、新聞からが8%と例年を10ポイントも下回る結果になったのは中日新聞の連載記事が紙面の都合により今回はできなかったことが最大の要因であろう。また、ロコミで展覧会を知ったが26%と10ポイントも増えたことは、裏を返せば「もっと広く知らせてほしい」などの声もあり、博物館の広報が十分ではない結果であるといえる。今後の大きな課題としなければならない。

関連行事として子ども対象に、絵本作家 あべ弘士氏とメリーゴーランド店主 増田喜昭氏によるワークショップと当館職員による絵本作り教室を、一般対象には絵本作家 あべ弘士氏とメリーゴーランド店主 増田喜昭氏による講演会を実施した。いずれも盛況で、所期の目的を達成することができたと思われる。

関連行事に加え、参加型の取り組みとして1階ロビーに前回も行った「感想画コーナー」を設置した。期間中450枚を超える感想画を描いてもらい、掲示することができた。「感想画コーナーは子どもに好評でした」という声も多くあり、休日など親子で感想画を描く姿が途切れることがないくらい、こちらも盛況であった。

(4)特別展3 「サンデー・マガジンのDNA～週刊少年漫画誌の50年～」

- [主催] 四日市市立博物館  
サンデー・マガジンのDNA展実行委員会
- [共催] 講談社、小学館
- [後援] 中日新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、伊勢新聞社、(株)シー・ティー・ワイ、エフエムよっかいち、三重テレビ放送、NHK津放送局
- [助成] (財)岡田文化財団
- [監修] 夏目房之介、齋藤宣彦
- 会期：11月7日(日)～12月26日(日) 43日間



- 観覧者数：4,410人
- 観覧料：一般700円、高校大学生500円、中学生以下無料
- 関連行事

○子ども博物館教室「漫画をつくろう！」  
 日時：11月13日(土)10:00～12:00  
 講師：野口裕(当館指導主事)  
 参加者：小中学生12人、保護者5人

○ギャラリートーク  
 日時：11月20日(土)14:00～15:15  
 講師：齋藤宣彦(展覧会監修者)  
 参加者：30人

■担当者所感(企画普及係 廣瀬毅)

日本で初めての週刊少年漫画誌が創刊されて50年が過ぎた。その間、週刊漫画誌が子どもや若者に与えた影響はとて大きく、わが国の戦後の文化を考えるうえで大きな意味を持つまでに至った。週刊少年サンデー(小学館)と週刊少年マガジン(講談社)は同じ日に創刊され、ともにライバルとして少年文化を牽引してきた。その力は漫画だけにとどまることなく、音楽やテレビ、玩具など多方面にわたり影響を与え続けてきた。その50年のあゆみを200点の貴重な原画と、年表やおもちゃ、ゲームなどのグッズで振り返ることができるように展示した。

特に、原画は一般に目にする機会が限られているため、当館では原画をじっくりと鑑賞できるように配置を工夫した。印刷された雑誌ではわからない繊細なタッチやホワイト修正の跡など、原画ならではの生々しいペンづかいが、多くの来場者の興味を誘った。

今や日本の漫画は国際的にも通用する表現力を持ち、カートゥーンやコミックではなく「マンガ」が国際的な言葉になりつつある。この展覧会では時代や国を越えてマンガの持つ芸術性や、マンガにしかできない表現力など、多くのものを伝えることができたと感じる。



(5) 企画展2 「なつかしい暮らし」

[主催] 四日市市立博物館  
 [助成] (財)岡田文化財団

- 会期：1月29日(土)～3月16日(水) 40日間
- 観覧者数：7,204人
- 観覧料：一般300円、高校大学生200円、中学生以下無料
- 関連行事

○子ども博物館教室「むかし体験」シリーズ  
 ◎暮らしの道具を使ってみよう  
 日時：1月30日(日)10:00～12:00  
 参加者：小学生21人 保護者23人 幼児6人

◎昭和っ子のあそびをしよう  
 日時：2月5日(土)10:00～12:00  
 参加者：小学生108人 保護者35人

◎おやつをつくろう  
 日時：2月12日(土)10:00～12:00  
 参加者：小学生27人 保護者13人 幼児3人

■担当者所感(企画普及係 野口裕)

会期中、市内外から49校園の子どもたちが連日来館し、職員、



ボランティアによる解説や実物資料を直接さわっての学習を体験し、充実した時間を過ごすことができた。また、土曜、日曜にはおじいさんおばあさんと孫、おとうさんおかあさんと子どもという家族づれの来館者が予想を上回る数であった。世代を超えた人々のつながりの場として博物館が活用されていることは、社会教育施設としての所期の目的を果たすことができたと思われる。

関連行事として子ども対象に、「むかし体験」シリーズ（①暮らしの道具を使ってみよう ②昭和っ子のあそびをしよう ③おやつをつくろう）を行った。中学生以下の子どもたちが楽しく体験できるようにと用意したが、子どもたちだけでなく大人にも大変好評で、親の世代の方たちにも懐かしいというよりは子どもと同じ新鮮な驚きをもって参加する姿があり、今後、子どもだけでなく大人向けも必要な時代に入ってきたことを実感させるものだった。

博物館に親しむためにも、生涯学習の一環としても、家族で楽しむ場としても学習支援展示「むかしの暮らし」に関する企画展はこれからも多様な展示の仕方、ワークショップやワークシート、体験コーナーなど来館者が楽しく参加できる内容を企画していくことが必要であると感じた。

### （6）共催展 「第52回北勢地区高等学校美術展」

北勢地区の高等学校美術部の生徒が授業などで制作した作品を中心に展示した。

[主催] 三重県高等学校美術工芸教育研究会、三重県高等学校文化連盟  
三重県教育委員会、四日市市立博物館

- 会期：1月18日(火)～23日(日) 6日間
- 観覧者数：624人
- 観覧料：無料



### （7）学習支援展示

展示内容	月日	会場
①大昔の四日市 －弥生時代と古墳時代－	4月17日(土)～5月30日(日)	サルビアギャラリー・3Fロビー
②四日市空襲と戦時下の暮らし	6月12日(土)～9月5日(日)	サルビアギャラリー・3Fロビー
③近代四日市港と稲葉三右衛門	10月16日(土)～1月10日(月・祝)	サルビアギャラリー
④むかしの暮らし	1月29日(土)～3月16日(水)	4F 特別展示室

## 3 教育普及事業

### （1）「子ども博物館教室」

①親子で挑戦！ 楽しい年中行事				参加者
5月1日	土	端午の節句		30人
6月12日	土	たなばた		29人
9月18日	土	いも名月		21人
12月11日	土	お正月		24人
2月26日	土	ひなまつり		15人



②ワークショップ			参加者
5月22日	土	萬古焼に挑戦	34人
5月23日	日	萬古焼に挑戦	22人
6月19日	土	四日市空襲のお話を聞こう	0人
7月24日	土	博物館を探検しよう!	20人
8月21日	土	平和について考えよう	4人
10月9日	土	絵本をつくろう!	10人
11月13日	土	漫画をつくろう!	12人



③むかし体験			参加者
1月30日	日	暮らしの道具を使ってみよう	21人
2月5日	土	昭和っ子のあそびをしよう	108人
2月12日	土	おやつをつくろう	27人



(2) 大人の社会見学「博物館バックヤードツアー」

5月16日(日) (5月18日の「国際博物館の日」にちなむ) 参加者 14人

11月14日(日) (11月13日・14日の「関西文化の日」にちなむ) 参加者 17人

(3) ミュージアムセミナー「日本近代絵画の楽しみ方」

月 日	内 容	講 師	参加者
9月5日(日)	高橋由一	田中善明 (三重県立美術館学芸員)	41人
10月3日(日)	黒田清輝	牧野研一郎 (愛知県美術館館長)	80人
11月7日(日)	岸田劉生	山田諭 (名古屋市美術館学芸員)	44人
12月5日(日)	前田青邨	吉田俊英 (豊田市美術館館長)	49人

(4) 博物館実習 (大学生・大学院生対象)

博物館学芸員の業務のみならず、館でおこなわれるさまざまな業務について実習や講義をおこなった。特に今年度は、一宮市博物館元館長岩野見司氏による考古資料の取り扱いの講義・実習を行い、考古資料の資料整理を実習生が行った。

7月27日(火)～8月1日(日) 共通実習

8月3日(火)～8月6日(金) 個別実習 (必要日数分)

受講生 12人 (9大学)

三重大学	1人	皇學館大学	1人	愛知淑徳大学	3人
愛知学院大学	1人	金城学院大学	1人	中部大学	2人
東海学園大学	1人	信州大学	1人	鹿児島大学	1人

7月27日(火)	9:00～ 館長挨拶、日程説明、 自己紹介	9:20～12:00 ミュージアムショッ プPOP制作(実習)	13:00～15:20 四日市市立博物館の使命 と地域・社会貢献(講義)	15:30～16:50 バックヤード見学(実 習)
7月28日(水)	9:05～10:20 常設展示の見学、キ ャプション作成につ いて(実習・講義)	10:30～14:00 常設展示キャプショ ン制作(実習)	14:05～15:00 博物館の経営とは(講義)	15:10～16:50 結び方・包み方(実習)



7月29日(木)	9:05～10:20 教育普及事業と学校連携について(講義)	10:30～12:00 博物館資料の調査・収集・保存について(講義)	13:00～17:00 風呂敷ワークショップ補助(実習)
7月30日(金)	9:05～10:20 常設展示キャプション制作(実習)	10:30～17:00 考古資料の取り扱い・整理(講義・実習)	
7月31日(土)	9:05～12:00 考古資料整理(実習)	13:00～17:00 資料の取り扱い(実習)	
8月1日(日)	9:00～12:00 無料開放日館内整理(実習)	13:00～14:15 常設展示キャプション制作(実習)	14:30～16:30 文化について(講義) 副館長あいさつ
個別実習	展覧会の会場係、資料整理等(8月6日まで)		

(5) 教員のための体験的博物館研修

博物館の活動をよりよく知ってもらうために体験を豊富に盛り込んだ研修会を行い、博物館がどのように学習に活用できるかを紹介し、学校との連携を深める機会とした。

8月17日(火) 参加者 2人  
個別研修 3校 3人

(6) 中学生の職場体験

総合的な学習の時間の一環として行われる職業体験学習に地元地域にある施設として支援・協力し、学校との連携を深める機会となった。

期 間	日 数	学 校 名	参 加 人 数
6月9日(水)～6月11日(金)	3日間	富洲原中学校	男子3人 女子0人 計3人
6月15日(火)～6月17日(木)	3日間	朝明中学校	男子4人 女子0人 計4人
9月22日(水)～9月24日(金)	3日間	塩浜中学校	男子0人 女子1人 計1人
9月28日(火)～9月30日(木)	3日間	南中学校	男子3人 女子1人 計4人
10月5日(火)～10月7日(木)	3日間	中部中学校	男子3人 女子0人 計3人
11月10日(水)～11月12日(金)	3日間	西陵中学校	男子2人 女子3人 計5人
11月16日(火)～11月18日(木)	3日間	内部中学校	男子4人 女子0人 計4人
1月12日(水)～1月14日(金)	3日間	港中学校	男子2人 女子1人 計3人
1月26日(水)～1月28日(金)	3日間	羽津中学校	男子3人 女子0人 計3人
2月2日(水)～2月4日(金)	3日間	常磐中学校	男子3人 女子0人 計3人
2月8日(火)～2月10日(木)	3日間	桜中学校	男子4人 女子1人 計5人
計11校			男子31人 女子7人 計38人

(7) 学習支援展示「むかしの暮らし」学校見学の対応(小学校3年生対象)

【今年度は企画展2「なつかしい暮らし」展の一部として展示】

学習支援ボランティア(登録者11人)

学校団体が学習支援展示の見学をする時に子ども達の活動をサポートし、きめ細かい学習の支援を行った。

月 日	学校名	人数	参加ボ ランティア	月 日	学校名	人数	参加ボ ランティア
2月1日(火)	富田小学校	115人	3人	2月17日(木)	日永小学校	97人	3人
2月1日(火)	千種小学校	42人	3人	2月18日(金)	神前小学校	54人	2人
2月2日(水)	羽津北小学校	88人	2人	2月22日(火)	羽津小学校	64人	2人
2月2日(水)	中部西小学校	66人	2人	2月22日(火)	小山田小学校	34人	3人
2月3日(木)	四郷小学校	64人	2人	2月22日(火)	白瀬小学校	20人	4人

2月3日(木)	笹川東小学校	36人	2人	2月23日(水)	保々小学校	90人	3人
2月3日(木)	海蔵小学校	151人	2人	2月24日(木)	三重北小学校	52人	2人
2月4日(金)	大矢知小学校	137人	3人	2月24日(木)	朝日小学校	101人	2人
2月4日(金)	浜田小学校	111人	3人	2月24日(木)	中央小学校	30人	1人
2月5日(土)	暁小学校	78人	7人	2月25日(金)	三重西小学校	84人	2人
2月8日(火)	県小学校	63人	6人	3月1日(火)	三和小学校	24人	2人
2月8日(火)	河原田小学校	47人	5人	3月1日(火)	内部小学校	92人	3人
2月8日(火)	稲部小学校	34人	3人	3月3日(木)	楠小学校	106人	3人
2月9日(水)	川島小学校	155人	3人	3月3日(木)	県立龔学校	5人	2人
2月10日(木)	川越南小学校	96人	3人	3月4日(金)	菰野小学校	171人	3人
2月10日(木)	八郷小学校	88人	3人	3月8日(火)	三浜小学校	12人	3人
2月15日(火)	常磐小学校	148人	3人	3月8日(火)	高花平小学校	50人	4人
2月16日(水)	西・東橋北小学校	35人	2人	3月9日(水)	塩浜小学校	48人	2人
2月17日(木)	桜台小学校	68人	4人	3月10日(木)	泊山小学校	89人	4人
2月17日(木)	三重小学校	65人	4人	3月11日(金)	桜小学校	80人	2人
					計41校	2,990人	117人

#### (8) ボランティアの養成と協働

広く市民が博物館活動に参加する機会を提供するため、2年ごとに新たな登録を行い、博物館ボランティアは74人（新規9人 退会者5人）、学習支援ボランティアは11人（新規4人 退会者3人）となった。

平成22年度は、登録者数94人 延べ活動者数958人であった。

#### (9) 講座講師の派遣

地区市民センター等館外で行われる講演会等への講師派遣を実施している。博物館の担うべき教育普及機能としての活動、市民の学習意欲を高めるための活動、また、博物館に親しんでもらうための活動として積極的に対応しているところである。

月 日	演題	主催者	参加者
4月8日	伊勢七宿の浮世絵	四高29会	15人
4月27日	近代四日市の鉄道	滴の会	20人
5月30日	東海道中 美味名物の旅	泗翠庵（文化会館）	10人
6月4日	くらしと暦	市民大学熟年クラス（文化国際課）	67人
7月14日	地獄と極楽の話	楠ふれあいセンター	8人
7月24日	保々の禅寺 大樹寺の宝物	保々歴史を語る会	20人
7月29日	心を包む風呂敷	学校事務員研修（教育総務課）	75人
8月3日	心を包む風呂敷	ときわ学童保育所	30人
8月26日	近代四日市の風景 泗水八景その後	常磐のまちを考える会	30人
9月10日	四日市湊と四日市港	八郷地区連合社会福祉協議会	12人
9月10日	四日市湊と四日市港	八郷地区連合社会福祉協議会	58人
9月11日	四日市港の歴史	みなとサポーター養成講座（四日市港管理組合）	20人
9月25日	四日市港の歴史	みなとサポーター養成講座（四日市港管理組合）	20人
10月2日	桜地区の仏教と神祇信仰を訪ねて	四日市市シルバー人材センター(桜地区)	86人
10月16日	東海道シンポジウム(パネル)	東海道宿駅会議	150人
11月11日	丹羽文雄	市民大学熟年クラス（文化国際課）	72人

11月16日	地獄と極楽の話	楠町商工青友会	12人
12月1日	心を包む風呂敷	橋北地区市民センター	13人
1月7日	心を包む風呂敷	日永地区市民センター	18人
1月14日	市内中心部の変遷について	商工会議所	30人
2月1日	心を包む風呂敷	四日市みなとライオンズクラブ	27人
2月1日	涅槃図とお釈迦さまの話	西勝寺	50人
2月17日	東海道と四日市宿	橋北地区総合型地域スポーツ・文化クラブ	22人
2月24日	三重の文学者に導かれて	桑名ライオンズクラブ	70人
2月25日	心を包む風呂敷	松寺緑寿会	5人
		計25回	940人

#### 4 資料収集事業

- (1) 博物館の諸活動のなかで、最も基本となる活動として、各資料の収集を図り、その保存に努めた。
- (2) 収蔵庫燻蒸 9月10日(金)～9月15日(水)〈この間、休館〉  
収蔵資料を黴、虫の被害から守るために毎年実施。
- (3) 資料の状況 (平成23年3月末現在)

1 人 文 科 学 資 料	区 分	実物・標本	模写模型
	(1) 考古	1,070	29
	(2) 美術工芸	2,614	10
	(3) 民俗	4,479	10
	(4) 歴史	7,990	37
	(5) 文学	4,848	0
	計	21,001	86

2 自 然 科 学 資 料	区 分	実物・標本	模写模型
	(1) 動物資料	0	0
	(2) 植物資料	3,272	0
	(3) 地学資料	93	2
	(4) 理工学資料	0	0
	(5) 天文資料	7	0
	(6) その他	0	1
計	3,372	3	

#### (4) 新収蔵資料

##### 平成22年度購入資料

番号	資料名・作者等	分野	点数	年月日
1	三重郡塩浜村大字塩浜全図	歴史	1式	平成22/11/21
2	学則日本自動車学校	歴史	1点	平成22/11/22
3	田村泰次郎草稿「四日市今は昔」	文学	1点	平成23/01/21
4	関西鉄道貨物運送専業「荷物問屋浪鉄組引札」・運送問屋「植村運送商店引札」・内国通運株式会社取引店「黒川運送店引札」・関西鉄道専属送元扱「大阪海運合資会社引札」	歴史	4点	平成23/01/27
5	森有節「青磁算木草花文八角向付」	美術工芸	一揃え	平成23/02/09
6	四日市大博覧会入場券・川北村通用札	歴史	2点	平成23/03/23
7	四日市市九鬼翠濤園主所蔵品	歴史	1点	平成23/03/23
8	田村泰次郎書額	文学	1点	平成23/03/29

平成 22 年度寄贈資料

番号	資料名・作者等	分野	点数	年月日
1	手押し稲刈り器 (ダイワ号)	民俗	1 台	平成 22/04/02
2	昭和 30 年代教科書・ノート類 (29 点) ・プリント類 (8 点) ・母の教室 (家庭学習の手びき 2 点) ・スタイルブック (1 冊) ・戦時中の手紙 (5 点) ・毛筆の練習 (1 点)	民俗	46 点	平成 22/04/02
3	牛乳箱	民俗	1 点	平成 22/04/06
4	伊藤桂一顕彰委員会『小説に描かれた大日寺』	歴史	1 点	平成 22/04/13
5	『運に乾杯』(昭和 20 年 6 月 1 8 日の四日市空襲の記述あり)	歴史	1 冊	平成 22/05/22
6	雑誌・書籍 (22 冊) ・明治・昭和の教科書 (47 冊) ・白黒テレビ・テレビ台・洗濯機・たらい・洗濯板・番傘・カメラ・時計・蛍光灯・石鹼紙箱・行火・湯たんぼ (2 点) ・ハエ取り器・アイスクリーム製造機・やかん (2 点) ・洗面器 (2 点) ・片手なべ・茶碗 (4 点) ・深皿 (2 点) ・十能・ハンガー・グローブ (2 点) ・ボール・羽子板 (2 点) ・湯呑・グラス (2 点) ・しょう油さし (2 点) ・味の素 (2 点) ・計算尺・ペン・スタンプ台・SPL コード・葉書 (2 点) ・まくら (2 点) ・乾電池 (2 点) ・シッカロール・薬の容器 (8 点) ・わかなみビン・化粧品容器 (4 点) ・インクびん・体温計・鏡・二宮金次郎像・カミソリの刃 (2 枚)	民俗	140 点	平成 22/05/23
7	マンガ「りぼん」付録	民俗	1 点	平成 22/05/24
8	国鉄四日市工場写真 (関西鉄道) (1 点) ・関西鉄道関係写真・ガラス乾板 (6 点) ・鉄道 100 年記念メダル(1 点)	民俗	8 点	平成 22/06/25
9	支那事変最近地図	歴史	1 点	平成 22/07/09
10	SPL レコード 25cm 盤 (51 点) ・20cm 盤 (1 点) ・17.5cm (6 点) ・14.7cm (29 点)	民俗	87 点	平成 22/07/16
11	教科書「初等科算数」八 昭和 18 年版 (戦後の墨塗り教科書)	歴史	1 冊	平成 22/07/31
12	権現丸模型	民俗	1 点	平成 22/08/10
13	木銃	民俗	1 点	平成 22/09/10
14	明治四日市萬古 首振人形 寿老人 (1 点) ・福助 (1 点)	美術工芸	2 点	平成 22/09/22
15	ハローキティ貯金箱	民俗	1 点	平成 22/09/24
16	稲葉三右衛門石膏像	歴史	1 点	平成 22/10/04
17	戦時下の写真 (11 点) ・三重の観光絵はがき北勢の風景 (1 組) ・四日市祭礼絵葉書 (1 組)	歴史	13 点	平成 22/10/15
18	一杯のむときの事典 (田村泰次郎)	歴史	1 冊	平成 22/10/21
19	タイガーアイスクリーマー	民俗	1 台	平成 22/10/21

20	雑誌 (5 点) ・書籍 (1 点) ・教科書 (15 点) ・四郷村地図 (1 点) ・砂糖缶 (1 点) ・しょう油びん (1 点) ・テーブルポット (1 点) ・木製ハンガー (3 点) ・竹ザル (2 点) ・食卓カバー (1 点) ・姫フォーク (10 点) ・スプーン (5 点) ・弁当箱 (1 点) ・焼網 (2 点) ・調味料ケース (1 点) ・鏡 (1 点) ・おたま (1 点) ・料理用バット (1 点) ・三角スケール (2 点) ・三角定規 (1 点) ・フィルムケース (1 点) ・食卓用テーブル (1 点) ・マッチ箱 (11 点) ・電気スタンド (1 点) ・ゼムクリップの箱 (1 点) ・ふきん (3 点箱入り) ・石けん (2 箱) ・テーブルクロス (1 点) ・コンパス (1 点) ・鉛筆 (1 点)	歴史	79 点	平成 22/11/04
21	松影館資料 花乃舎画桐戸絵 (8 点) ・螺鈿地袋戸 (4 点) ・脱衣所吊下照明器具 (1 点) ・浴室壁付照明器具 (1 点) ・便所壁付照明器具 (1 点) ・客間釘隠し (6 点) ・壁付帽子掛けフック (4 点) ・電気式呼び鈴 (1 点) ・碇子ブレーカー (2 点)	歴史	28 点	平成 22/11/16
22	交趾写 鳳凰牡丹文香合	美術工芸	1 点	平成 22/11/18
23	カチューシャ愛唱歌集第 2 集～第 6 集 (昭和 34 年～36 年) ・カチューシャ愛唱歌集箱入り第 1 集～第 6 集 (昭和 41 年～45 年) ・炎・世界唱歌集・デュエットコーラス・日本のうた	民俗	15 冊	平成 22/11/18
24	炭火ストーブ (1 点) ・戦時中のかばん (1 点) ・ひなの給飼器 (1 点) ・戦時中の水筒 (1 点) ・ふた (1 点) ・戦時中のゲートル (2 点) ・菓子器 (1 点) ・おか持ち (2 点) ・伊勢年鑑 1954 (1 点) ・軍靴 (1 点) ・壁掛け式電話機 (1 点)	民俗	13 点	平成 22/11/18
25	少年サンデー特別増刊「名探偵コナン&金田一少年の事件簿」NO.1 (2008 年 4 月 25 日号)	民俗	1 点	平成 22/11/20
26	大東亜戦争割引国庫債券 (昭和 18 年 1 点) ・戦時貯蓄債券 (昭和 18・19 年 2 点)	民俗	3 点	平成 22/11/27
27	伊藤伝七資料 増補訂正二千五百年史 全 竹腰与三郎 (1 点) ・シルクハット (十世伝七所有) (1 点) ・1900 年巴里万国博覧会金牌額 (1 点) ・第五回内国勸業博覧会 1 等賞牌額 (1 点) ・大正震災志上 (1 点) ・銘酒八島酒壺形看板 (2 点) ・青淵回顧録上 (1 点) ・増補注釈食道楽夏の巻 村井弦斎著 (1 点) ・戦余録 完 (1 点) ・大阪朝日新聞二万号記念帖 (1 点) ・御巡幸の記 三重県 (1 点) ・答案綴 本科第一学年 伊藤てる (1 点) ・記念帖 (1 点) ・図画成績綴 本科第一学年 伊藤てる (1 点) ・蘆竹遺稿 (1 点) ・結城宗広卿の勤皇 結城神社 (1 点) ・歴代御陵案内地図 (1 点) ・紡績界の隠れたる偉人岡常夫君 (1 点) ・南方熊楠全集第三巻 (1 点) ・今上陛下御即位式写真帖上巻、下巻 (各 1 点) ・幼学綱要 全 (1 点) ・門野幾の幾之進先生事蹟文集 (1 点) ・旭川詩鈔第二篇上、下 (各 1 点)	歴史	40 点	平成 22/12/03
28	消火弾	民俗	1 点	平成 22/12/15
29	カメラ コニカ S (1 点) ・露出計 (1 点)	民俗	1 点	平成 22/12/15

30	花柄ホーローなべ(1点)・木製ハンガー (1点)	民俗	2点	平成 22/12/22
31	サランラップ(2点)	民俗	2点	平成 23/01/05
32	旺文社文庫 (昭和 40 年代 7 点) ・郵便はがき 10 円 2 種 (各 5 枚 10 点)	民俗	17 点	平成 23/02/13
33	羽子板 (羽根 5 点付 2 枚) ・木製ビーズバッグ (1 点) ・洋裁ノート (2 冊) ・和裁甲板 (印付け板 1 枚)	民俗	6 点	平成 23/02/04
34	昭和 30 年代を中心とする写真 (136 枚)	民俗	80 点	平成 23/02/13
35	電電公社 1984 年製造プッシュホン (1 点)	民俗	1 点	平成 23/02/18
36	木製ハンガー	民俗	1 点	平成 23/3/19

平成 22 年度新規寄託資料

番号	資料名・作者等	分野	点数	年月日
1	地藏菩薩坐像	美術工芸	1 軀	平成 22/08/18

## 5 調査研究事業

### (1) 調査研究

学芸員の博物館専門職員としての資質を高め、専門分野の学術的研究をはじめさまざまな豊富な知識を享受し、特別展示の開催等、多くの事業に資するため、各種情報の収集に努めつつ、調査研究活動を行っている。今後も常設展示、特別展示等の充実、教育普及事業の活発化、各専門分野における自己研鑽に努めつつ、他の博物館や公共機関等の調査研究活動への協力、資料収集、展示等への技術的指導と助言・援助、また、いろいろな施設で開催される各種の講演会等への講師派遣など研究成果の還元を図っている。

そのため、館及び分野ごとの共通テーマに基づいた年度ごとの課題調査、学芸員個別の研究テーマによる調査、企画・特別展示に向けた事前の調査など、博物館の諸活動を支える基礎的活動を活発に展開していきたいと考えている。

#### 課題調査

「市内所在資料・コレクション等調査」

「岩野見司考古資料調査」

「次年度以降企画・特別展示調査」

「昭和のくらし道具調査」

「丹羽文雄作品調査」

「市内仏教美術調査」

「教育普及事業 (ワークショップ・学習支援展示) 調査」

### (2) 館蔵史料の翻刻作業

昨年度に引き続き、「清水本陣文書」の翻刻作業を進めた。古文書ボランティア (登録者 9 人) によって月 2 回ずつ当館にて活動し、その成果については今後発表していく予定である。

### (3) 入館者調査

今後の博物館のあり方や、企画、運営等に資するため、各企画・特別展示ごとに「入館者アンケート」を実施し、入館者の情報を分析して、市民、利用者側のニーズの把握に努めた。

## 2 プラネタリウム投映事業

### 1 天文展示

テーマ「宇宙観 5000 年の歴史」、天体写真、隕石等を展示。また、映像コーナーでは、タッチパネル機器「スペース・シミュレーション」を設置、「太陽系の旅 (NHK)」、「祈りー小惑星探査機はやぶさの物語」を常設モニターにてビデオ放映した。さらに、番組に合わせて、「火薬で飛ばすモデルロケット」、「JAXA はやぶさ解説パネル」、「金星の満ち欠け解説パネル」、「地球から見た金星の満ち欠け模型」などを展示した。

### 2 投映活動

季節番組を2種類（家族向けと一般向け）に分けての投映方式を継続・充実させた。一般向け3番組のうち2番組を自主企画で制作するとともに、見ごろの星座を特集する星座神話番組「神話の星めぐり」を、50 分間のフルライブで解説をした。また、聴覚障害者にも配慮した字幕付き投映、園児や児童を対象とした学習投映なども実施した。さらに、特別企画「はやぶさカプセル展示」にあわせ、一般向け特別番組「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」を追加投映した。

	10:30～	13:20～	14:40～	16:00～
平日	(学校園団体利用)	一般向け番組	星座神話番組	
土曜日・学校園長期 休暇期間の平日	家族向け番組	家族向け番組	一般向け番組	星座神話番組
日曜日・祝日・学校園 長期休暇期間の土日	家族向け番組	家族向け番組	一般向け番組	家族向け番組

※夏休み期間のみ 16:00 の回は、星座神話番組を一般向け番組に変更した。

#### (1) 季節番組 (料金: 一般 530 円 高・大生 370 円 小・中生 200 円 幼児無料)

	番組名 / 投映期間	投映回数	入場者
冬春番組	一般向け番組「宇宙への挑戦ー日本のロケット開発ー」 2月6日(土)～5月30日(日) 91日間	79回	773人
	うち平成22年度分(4/1～5/30) 48日間	40回	331人
	家族向け番組「まじめにふまじめ かいけつゾロリ 『宇宙たんけん大さくせん』～おうごんの星をさがせ! 編～」 2月6日(土)～5月30日(日) 45日間	113回	3,764人
	うち平成22年度分(4/1～5/30) 24日間	61回	1,801人
夏番組	一般向け番組「宵の明星『金星』のふしぎ」 6月5日(土)～9月26日(日) 88日間	107回	6,896人
	家族向け番組「ポケットモンスター ダイヤモンド&パール ～あつまれ! ポケモン星まつり～」 6月5日(土)～9月26日(日) 59日間	141回	10,542人
秋冬番組	一般向け番組「宇宙一直線」 10月2日(土)～平成23年1月30日(日) 87日間	87回	1,670人
	一般向け特別番組「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」 12月11日(土)～1月10日(月・祝) 16日間	36回	4,200人
	家族向け番組「まじめにふまじめ かいけつゾロリ 『宇宙たんけん大さくせん』～ちきゅうをめざせ! 編～」 10月2日(土)～平成23年1月30日(日) 40日間	90回	3,178人
冬春番組	一般向け番組「地球×サイエンス～小惑星衝突の脅威!～」 平成23年2月5日(土)～5月29日(日) 90日間	88回	2,100人
	うち平成22年度分(2/5～3/31) 44日間	44回	1,092人
	家族向け番組「仮面ライダー キバ&電王 デンライナー 宇宙へ!」 平成23年2月5日(土)～5月29日(日) 44日間	112回	4,725人
	うち平成22年度分(2/5～3/31) 21日間	53回	2,417人

星座神話 番組	4月「しし座」、5月「おとめ座」、6月・7月「かんむり座」、 9月・10月「いるか座」、11月・12月「ペルセウス座」、 1月「うさぎ座」、2月・3月「こいぬ座」 170日間	158回	1,350人
合計	一般向け番組のみ (H22年度分)	314回	14,189人
	家族向け番組のみ (H22年度分)	345回	17,938人
	H22年度季節番組 (一般向け+家族向け+星座神話)	817回	33,477人

※一般向けの各番組でモニター試写会を実施した。また、家族向け、一般向け番組について1回ずつ字幕付投映を実施した(星座神話番組を除く)。  
赤外線補聴装置を常設。

### 冬春番組 「宇宙への挑戦 —日本のロケット開発—」

国際宇宙ステーションの完成にあわせて、日本のロケット開発をテーマにした番組の自主制作を行った。1950年代から本格的に始まったロケット開発には、苦難に満ちた努力があったことについて、年代を追って紹介した。また、その歴史を知る技術者(の川泰宣 JAXA名誉教授)のインタビューを交えるなど、画像や映像を利用してわかりやすく解説した。さらに、大きな夢に向かってあきらめずに努力を続けることの大切さを訴えかける番組とした。

アンケートからは、「日本のロケット技術について知ることができて良かった」という声を頂いた。また、「小さい子どもでもわかりやすく楽しむことができた」という声もあり、一般を対象とした番組であり難しい語句や原理を取り上げてはいたが、観

覧者層にあわせた臨機応変の生解説による効果があったように思う。(天文係 加藤正之)



### 冬春番組 「かいけつゾロリ 宇宙たんけん大さくせん おうごんの星をさがせ!編」

小学校低学年の子どもたちに支持を集める児童書のキャラクター、「かいけつゾロリ」の全天周映像作品で、前編・後編の2作を春・秋に分けて投映した。小さいころから馴染んできたキャラクターによる物語で、「黄金の眠る星を探しに行く」という宇宙への夢をかきたてるような内容が好評だった。静と動のバランスが良く、引き込まれるようなストーリー展開だが、それほど科学性が重視されていない点が気になる子どももいたようだ。しかし番組の最後には、キャラクターが宇宙飛行士の宇宙空間での仕事を具体的に紹介するコーナーを設けるなど、宇宙を身近に感じられるような配慮もなされており、その点が保護者に好評であった。また、今回のような、前後編に分かれる作品を投映するのは初めてのことである。間に夏番組をはさみ、内容が春と秋に分かれてしまうことについて、アンケートでは意見は少なく、おおむね受け入れられたようだ。ただ「連続した時期のほうが良い」という意見も見られた。夏番組に、広い世代に人気のある「ポケットモンスター」を投映するための配慮であったが、今後の番組投映時期の決定の参考にしたい。(天文係 須藤悠愛)

### 夏番組 「宵の明星『金星』のふしぎ」

小惑星探査機「はやぶさ」帰還に日本中が沸いた2010年に打ち上げられた金星探査機「あかつき」。はやぶさの後継機ということで注目を集めた「あかつき」をきっかけに、金星そのものを特集する番組を自主制作した。ちょうど2010年は、7月から9月ごろまで金星が「宵の明星」として輝くため、導入として金星を探し、実際の空での見え方をつかんでもらった。

さらに、金星クイズを出題し、「なぜ『宵の明星』『明けの明星』のように、見える時間帯





が変わるのか」、「望遠鏡で見ると、月のように満ち欠けをして見えるのはなぜか」など、金星の一般的な謎を紹介した。また、金星ツアーに出かける演出後、金星の環境について触れると、地球の双子星と呼ばれながらも、似ても似つかない過酷な環境に、来館者からは驚きの声が上がっていた。また最後に、金星探査の歴史や、「あかつき」の性能とその調査内容、プロジェクトの意義を紹介した。残念ながら「あかつき」は、金星周回軌道に乗れなかったが、この番組を通して、宇宙探査の重要性、挑戦することの大切さを感じられるよう、工夫し解説をした。またアンケートでは、分かりやすく科学性に優れている点や、アコースティックギターのBGMにより、リラックスしながら解説を聞けるという点が高く評価されていた。科学性が高い番組は堅苦しくなりがちだが、BGMにより雰囲気を和らげることができる。番組において、音楽の持つ効力を改めて感じた。

さらに、2学期に行う移動式プラネタリウムでの連携授業を実施する中学校（23校）へは、事前学習としてプラネタリウムを観覧してもらうために、学習参加券を配布した。その結果、中学生だけで3,680人を超える参加者があった。また合計観覧者数が6,896人となり、一般向け番組の夏番組としては過去2番目の観覧者数となった。（天文係 須藤悠愛）

### 夏番組 「ポケットモンスター あつまれ！ポケモン星まつり」

もはや国民的アニメともいえる「ポケットモンスター」のプラネタリウムオリジナル作品、第3弾である。幅広い世代から支持を集め、家族全員で楽しめる点や、キャラクター人気のみならず、星の話題へ自然に誘導するなどストーリー構成もしっかりしていた点が好評だった。期間中この番組のために何度も来館する子どもの姿もあった。キャラクター番組には、それだけで牽引力があるが、高い評価を得るためには、物語の魅力が重要であると感じた。「星まつり」という夏休みらしい場面で、ポケモンについてのクイズが出題され、キャラクター名を大きな声で答えて楽しむ子どもたちの姿が印象的だった。また、アンケートでは前半の星空解説について「わかりやすく、面白かった」「今まで知らなかった星に興味を持ってうれしい」「今夜さっそく星を見てみたい」など、番組本編への感想よりも多くの意見が集まった。家族向け番組は、星に興味を持つ前の子どもたちへの、星空への入り口といった重要な役割があると再認識した。今後も、質のよいキャラクター番組の選定や、星空を楽しんでもらえるよう、親しみやすく分かりやすい星空解説を心がけていきたい。（天文係 須藤悠愛）

### 秋冬番組 「宇宙一直線」

本作品はプラネタリウム制作会社からの配給番組で、全天に広がるデジタル映像作品である。デジタルファインアーティストKAGAYA氏の前作品「銀河鉄道の夜」が好評であり、番組アンケートからも次回作を要望する声がたくさんあったことから選定した番組である。

作者の生き方を通して、夢を追ってまっすぐに進むことを応援する番組であった。そのため、アンケートからは「一つの人生を通して、伝わってきたメッセージを非常に強く感じる事ができました。見に来て、本当によかった。」

「圧倒的な映像のクオリティに満足させられた。」「映像も音楽もきれいで良かった。」と好評であった。

プラネタリウムのドーム空間を生かした音と映像の演出効果は、今後のプラネタリウムの自主制作でのヒントとして、取り入れていきたい。しかし、視覚的に迫力のあるデジタル映像プラネタリウムを制作することは技術的に困難であり、プラネタリウム制作会社からの配給番組を今後も効果的に採用していきたい。（天文係 加藤正之）



### 秋冬番組 「かいけつゾロロ 宇宙たんけん大きくせん ちきゅうをめざせ！編」

冬春番組の後編であったが、前編（おうごんの星をさがせ！編）のダイジェストによる説明もあり、本作品だけでも十分楽しむことができる内容であった。また、本編の最後に取り上げられている宇宙大百科（宇宙飛行士の訓練についての解説）が、子ども達だけでなく、親からも興味を持って楽しむこと

ができた」と好評であった。

また、集客増をねらって観覧者に配布したノベルティー（キラキラカードやオリジナル鉛筆）も好評であった。さらに、プラネタリウム観覧だけで終わるのではなく、当館の1階にあるミュージアムショップでもかいけつゾロリ関連の書籍販売にも取り組んだ。

しかし、前編よりも後編のほうが観覧者数の減少がみられたことから、もっと広報活動に力を入れていく必要があった。市立図書館や各学校の図書室での児童書としての貸出件数が圧倒的に多いキャラクターであり、今後の家族向け番組を放映する際は、もっと図書館や各学校などとの連携を強めていきたい。（天文係 加藤正之）

### 星座神話番組 「神話の星めぐり」

前年度に続く、星空と神話をじっくりと楽しむ番組。プラネタリウムの原点ともいえる内容で、毎年のアンケートでも安定した評価を受けている。今年度は、これまでに特集したことのない星座で、秀逸なギリシャ神話が残されているものを取り上げた。また、2011年の干支にちなみ、1月は「うさぎ座」を特集した。明るい星がないため夜空で見つけにくく、めったに主役とはならない星座だが、例年の2倍近くの来館者があり好評だった（過去5年間、1月期の比較より）。アンケートで人気の高いコーナー「誕生日の星空再現」も継続して実施した。誕生月に来館された方の中から一名に、生まれた日の星空を再現して紹介するコーナーである。記念にと、誕生日当日に来館される方や、昨年見たけれどもう一度見たいという方、さらに子どもの生まれた日の星空を見せてやりたいという保護者の方など、思い思いに自分だけの星空を楽しんでいかれる様子は、解説者として本当にうれしいものである。これからも、来館者に望まれ、親しまれる番組として制作を続けていきたい。（天文係 須藤悠愛）

### (2) 学習放映（保育園、幼稚園、小・中学校、高校等の団体利用）

放映：平日①10:00～、②11:00～

季節の星座を中心に年齢・学年に応じた、生解説による双方向型の学習用プラネタリウム放映  
放映回数 125回、入場者数 207団体（10,685人）

月	テーマ	校 園	入 場 者	
4月～5月	保 幼	星座動物園へようこそ	0 園	0 人
	小 学	土星クイズに挑戦！	6 校	199 人
	中 学	惑星クイズに挑戦！	0 校	0 人
	その他		0 校	0 人
6月～7月	保 幼	七夕物語	86 園	3,442 人
	小 学	星座早見盤の使い方と夏の大三角	3 校	211 人
	中 学	太陽の動きと日食または金星	0 校	0 人
	その他	七夕物語	4 校	75 人
9月～10月	保 幼	お月さまのお話	4 園	214 人
	小 学	月の動き、月の満ち欠け	25 校	1,616 人
	中 学	天の川は銀河系	0 校	0 人
	その他		1 校	59 人
11月～12月	保 幼	アンドロメダ姫物語	4 園	203 人
	小 学	月の動き、月の満ち欠け	28 校	2,331 人
	中 学	星の一生、金星の動き	0 校	0 人
	その他		4 校	105 人
平成 23 年 1月～3月	保 幼	うたのプラネタリウム	18 園	814 人
	小 学	冬の大三角と星の色	19 校	1,321 人
	中 学	南半球で見るオリオン座	0 校	0 人
	その他		5 校	95 人

(3) 特別番組

① 「宇宙塾～天文<sup>がく</sup>しませんか?～」

土曜日 16:30～18:00 料金:800円

市民が天文・科学をより詳しく学習する機会として、「宇宙塾」を年3回、連続講座宇宙塾実践編を1回実施した。天文学最前線で活躍中のゲストを迎えて、最新の話題や実験質問コーナーをおりました、プラネタリウム特別版。

月 日	テーマ / 講師	入場者
第41回 8月21日(土)	灼熱の惑星、金星を探れ! 阪本成一 (JAXA 宇宙航空研究開発機構教授)	61人
特別編 12月23日(木)	「はやぶさ」プロジェクトチームの挑戦! 的川泰宣 (JAXA 名誉教授・ NPO 法人子ども・宇宙・未来の会会長)	175人
第42回 2月19日(土)	化石から探る地球史 川上紳一 (岐阜大学教育学部教授)	35人
宇宙塾実践編 (連続講座)	皆既月食を撮ろう!ーデジカメ天体写真講座ー 浅田英夫 (天文研究家)	
12月4日(土)	簡単! 撮影技術編	52人
1月15日(土)	簡単! 画像処理編	27人

※宇宙塾は、教員研修を兼ねて実施。

② アロマと星の旅「ワールドカップ直前!感動の大ステージ 南アフリカの旅」

料金:季節番組と同じ

アロマ:グレープフルーツ

月 日	時 間	放映回数	入場者
5月18日(火)～21日(金)	11:00～11:50	4回(平日)	54人
5月22日(土)～23日(日)	16:00～16:50	2回(土日)	108人

③ 生演奏コンサート

料金:1,200円(前売制)

月 日	時 間	テーマ/出演者	入場者
6月19日(土)	19:00～20:30	七夕コンサート/ ピッコロバイオリン:グレゴリー・セドフ	161人
7月30日(金)	14:30～16:00	青島広志のおしゃべりコンサート	155人
	18:30～20:00	ピアノ:青島広志 テノール:小野勉	163人

④ CDコンサート

金曜日 19:00～20:00 料金:600円(前売制)

月 日	テーマ	入場者
8月13日(金)	夏の星空と「いきものがかり特集」	124人
12月17日(金)	クリスマスの星空と「槇原敬之特集」	109人

⑤ はやぶさ特別放映

プラネタリウム番組「HAYABUSA ～BACK TO THE EARTH～」

料金:季節番組と同じ

月 日	時 間	入場者
12月11日(土)～12日(日) 12月18日(土)～19日(日) 1月4日(火)～10日(月)	13:20～14:10	4,200人
12月22日(水)～26日(日)	10:00～10:50、11:20～12:10、13:20～14:10、14:40～15:30、16:00～16:50	

### 3 天文教育普及事業

#### (1) 子ども科学教室 (講師:天文係職員、天文ボランティア)

	月 日	科学工作	きらら号観望会
夏	7月25日(日)	430人	85人
冬	2月13日(日)	40人	66人

夏の工作内容:①ソーラークッカー ②ふうせんヘリコプター  
③ペットボトル風力発電機 ④スーパー竹とんぼ (4種類)  
冬の工作内容:空気砲 (1種類)

#### (2) 天文教育研修会

教育センターと共催のプラネタリウムを利用した教員対象の指導者研修会

月 日	時 間	研 修 内 容	場 所	参加者数
8月21日(土)	16:30～18:00	第41回 宇宙塾	博物館	5人
8月24日(火)	13:30～21:00	アウトドアセミナー②	少年自然の家	21人
12月4日(土)	16:30～18:00	宇宙塾実践編①	博物館	1人
1月15日(土)	16:30～18:00	宇宙塾実践編②	博物館	1人
2月19日(土)	16:30～18:00	第42回 宇宙塾	博物館	2人

※宇宙塾と兼ねて実施(参加者数は再掲である)。

※8月24日は、少年自然の家と共催で実施。

#### (3) 公開観望会

月 日	時 間	内 容	場 所	
8月12日(木)	19:00～21:00	ペルセウス座流星群と 天の川観望会	星の広場	雨天 中止

#### (4) 学校連携・・・市内及び三重郡の小中学校で実施

①小学生対象・・・3D投影機を用いて月の動き、国際宇宙ステーションとスペースシャトルの役割についてなどを解説。各学校の担当教諭と連携しながら授業をすすめる。

実施日・・・原則として9月中旬から10月下旬までの水・木・金曜日

実施校・・・市内21校、三重郡3校(2,019人)

月 日	学校名	人数	月 日	学校名	人数
9月16日(木)	常磐小	127人	10月5日(火)	三重小	73人
9月17日(金)	富田小	100人	10月6日(水)	海蔵小	135人

9月21日(火)	川島小	137人	10月7日(木)	常磐西小	113人
9月22日(水)	三浜小	20人	10月8日(金)	三重北小	58人
9月22日(水)	東橋北小	14人	10月12日(火)	県小	78人
9月24日(金)	中央小	33人	10月14日(木)	三重西小	65人
9月27日(月)	朝上小	112人	10月15日(金)	八郷小	89人
9月28日(火)	高花平小	53人	10月19日(火)	内部東小	110人
9月29日(水)	笹川東小	40人	10月20日(水)	日永小	130人
9月30日(木)	竹永小	76人	10月21日(木)	大矢知興譲小	169人
10月1日(金)	富洲原小	103人	10月22日(金)	川越北小	72人
10月4日(月)	小山田小	35人	2月18日(金)	下野小	77人

②中学生対象・・・移動式プラネタリウムを用いて星の日周運動と年周運動、北極・赤道での太陽の動き、皆既月食などを解説。各学校の担当教諭と連携しながら授業をすすめる。

実施日・・・原則として11月中旬から1月中旬までの火・水・木・金曜日

実施校・・・市内20校、三重郡3校、その他1校(3,005人)

事前学習について・・・連携授業のための事前学習としてプラネタリウム夏番組を活用。学習参加券を配布し、夏休み期間中の来館を促す。

月 日	学校名	人数	月 日	学校名	人数
10月27日(水)	三重平中	83人	12月7日(火)	港中	68人
10月28日(木) 29日(金)	朝明中	230人	12月8日(水)	桜中	160人
11月9日(火)	常磐中	204人	12月9日(木)	川越中	135人
11月12日(金)	山手中	198人	12月10日(金)	笹川中	120人
11月17日(水)	富田中	80人	12月15日(水)	富洲原中	102人
11月18日(木)	三滝中	154人	12月16日(木)	保々中	66人
11月19日(金)	羽津中	143人	1月13日(木)	大池中	148人
11月25日(木)	朝日中	66人	1月14日(金)	西笹川中	98人
11月26日(金)	八風中	198人	1月19日(水)	西陵中	69人
12月1日(水)	塩浜中	45人	1月26日(水)	橋北中	32人
12月2日(木)	内部中	223人	1月27日(木) 28日(金)	南中	237人
12月3日(金)	西朝明中	116人	1月12日(水)	北勢きらら学園	30人

※中部中学校のみ、博物館のプラネタリウムを利用。(生徒数：129人)

※楠中学校と菰野中学校は、学校の都合により中止。

(5) 移動式プラネタリウム派遣

直径7メートルのデジタル式プラネタリウムの派遣を行った。

10月17日(日)	9:00~14:00	季節の星座解説	中部西小学校	160人
-----------	------------	---------	--------	------

(6) 「はやぶさ」帰還カプセル展示イベント

小惑星探査機「はやぶさ」の帰還に伴い、はやぶさパネル展及び帰還カプセル展示などを実施。

月 日	内 容	参加者数
12月11日(土) ～1月30日(日)	「はやぶさ」パネル展 小惑星探査機「はやぶさ」60億キロの旅	7,158人
12月11日(土)	「はやぶさ」ペーパークラフト工作	200人
12月18日(土)	ビーズ細工教室「はやぶさ」携帯ストラップ作り	50人
12月21日(火)	「はやぶさ」帰還カプセル展示 内覧会	323人
12月22日(水) ～26日(日)	「はやぶさ」帰還カプセル展示	9,014人

※ 期間中、館内各階にて「はやぶさ」関連展示を行った。

① 会期を通して開催 (12月11日～1月30日)

- 1階エントランス : 「はやぶさ」実物大模型展示 (岡崎市 肌附氏制作)
- 2階市民ギャラリー : ・「はやぶさ」パネル展 小惑星探査機「はやぶさ」  
60億キロの旅 (伊那市創造館より借用)  
・「はやぶさ(帰還編)」ビデオ (JAXA提供)  
展示室内ガラス面での投映  
・小惑星イトカワ 1/1000 模型展示  
(日進市 北村氏制作)
- 5階ロビー : 「はやぶさ」解説パネル展示 (JAXA提供)

② カプセル展示期間中のみ開催 (すべてJAXAより借用) (12月22日～26日)

- 1階講座室 : 「はやぶさ」帰還カプセル実物展示  
(前面ヒートシールド、背面ヒートシールド、パラシュート、  
インスツルメントモジュール、搭載電子機器部)
- 1階情報コーナー : 「はやぶさ(帰還編)」ビデオ 大型スクリーン投映
- 2階吹抜け : 「はやぶさ」1/5モデル展示
- 2階市民ギャラリー : 「はやぶさ」帰還カプセルカットモデル展示

(7) 天文ボランティア養成講座

移動天文車を利用した天体観望会をはじめ、各種天文普及事業に協力をしていただく天文ボランティアを募集し、養成した。参加者は、20人。

(8) 移動天文車事業

天文ボランティア (39人) の協力を得て観望会を実施。

① 派遣事業

要請により市内各地へ出動し、天文ボランティアの協力を得て観望会を行った。  
天候不順による観望会中止時で希望する団体には、天文教室を実施した。  
稼動予定件数 40件 (うち派遣回数33回、中止時の天文教室回数1回)  
参加者数 3,666人 (うち中止時の天文教室参加者数 84人)  
ボランティア参加数 84人 (延べ人数)

② 主催事業

季節に見ごろの惑星などの観望会を、天文ボランティアの協力を得て市内各地で実施した。  
対象は子どもから大人まで。  
稼動予定件数 14件 (うち実施回数11回)  
参加者数 1,765人  
ボランティア参加数 60人 (延べ人数)



月 日	時 間	内 容	場 所	参加者数
4月24日(土)	19:00~20:30	月と土星と火星を見よう	市民公園	215人
5月16日(日)	10:00~15:00	サンデー太陽観望会	四日市ドーム	592人
6月26日(土)	19:30~21:30	部分月食を見よう	市民公園	中止
7月25日(日)	19:30~21:00	月と金星を見よう	市民公園	85人
8月1日(日)	15:00~18:30	サンデー太陽観望会	四日市港 (ポートビル前)	175人
8月1日(日)	19:00~20:30	金星を見よう	四日市港 (ポートビル前)	110人
8月21日(土)	19:00~20:30	月と金星を見よう	市民公園	113人
8月24日(火)	19:00~20:30	アウトドアセミナー②	少年自然の家	88人
10月20日(水)	18:00~19:30	栗名月と木星を見よう	市民公園	中止
12月4日(土)	18:30~20:00	木星を見よう	市民公園	200人
12月21日(火)	16:30~19:30	皆既月食を見よう	富双緑地公園	中止
1月15日(土)	18:30~20:00	月と木星を見よう	市民公園	40人
2月13日(日)	13:30~15:00	サンデー太陽観望会	市民公園	66人
2月19日(土)	18:30~20:00	冬の大きな三角を見よう	市民公園	81人

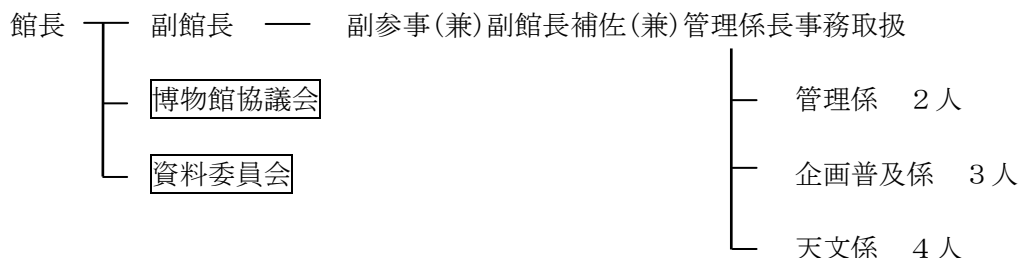
※中止：天候不順のため

## Ⅱ 管理・運営

### 1 組織

#### (1) 職員構成

(平成 23 年 3 月末現在)



#### (2) 事務分掌

##### [管理係]

- (1) 博物館事業の調整及び運営に関すること。
- (2) 調査、統計及び報告に関すること。
- (3) 博物館協議会に関すること。
- (4) 施設の維持管理及び館内の秩序維持に関すること。
- (5) 施設の使用許可に関すること。
- (6) 観覧券の発売及び入館者の受付、案内等に関すること。
- (7) 楠歴史民俗資料館に関すること。
- (8) 館の庶務に関すること。

##### [企画普及係]

- (1) 特別展示の企画及び開催に関すること。
- (2) 常設展示及び特別展示の利用者への説明、指導等に関すること。
- (3) 博物館資料の収集、保管、展示、貸出及び利用に関すること。
- (4) 博物館資料の調査研究及び報告書の刊行頒布等に関すること。
- (5) 講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (6) 博物館資料の購入、受贈及び受託に関すること。
- (7) 博物館の広報に関すること。

##### [天文係]

- (1) プラネタリウムの映写及び天体観測に関すること。
- (2) 天文知識の普及及び啓発に関すること。
- (3) 天文資料の収集、保管、展示及び調査研究に関すること。
- (4) 移動天文車に関すること。



## 2 予算

平成 22 年度

[歳入]

(単位：千円)

科目			当初予算額
使用料及び手数料 使用料 教育使用料 社会教育使用料	博物館使用料  楠歴史民俗資料館使用料	博物館観覧料 プラネタリウム観覧料 施設使用料 特殊器具使用料 敷地占用料	14,528 8,366 3,446 1 1
財産収入 財産売払収入 物品売払収入 物品売払収入	市史等売払収入	図録等	2,970
諸収入 雑入 雑入 雑入	教育費雑入  各種講座受講料 広告料収入	委託販売手数料 博物館事業費助成金 セミナー・教室等参加料 プラネタリウム広告料収入	2,500 6,500 140 360
計			38,812

[歳出]

(単位：千円)

科目	当初予算額	管理運営	調査研究	展示開催	資料収集	教育普及	プラネタリウム 投映・維持管理	移動天文車 維持管理
報酬	190	190						
賃金	6,969	3,179		1,222	2,568			
報償費	1,263		194	253	64	270	482	
旅費	1,015	202	130	436	22		225	
需用費	33,894	27,157	50	3,600	200	520	2,248	119
役務費	3,589	1,420		1,615		415	139	
委託料	100,526	69,746		12,386	3,530	788	13,813	263
使用料及び賃借料	3,300	1,371			351		1,578	
備品購入費	195		15		100		80	
負担金補助及び交付金	16,780	67	8	16,700			5	
計	167,721	103,332	397	36,212	6,835	1,993	18,570	382

### 3 博物館協議会

四日市市立博物館協議会は、博物館の運営に関して館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、博物館法及び四日市市立博物館条例の規定に基づき設置されるもので、平成5年6月1日付けで委員17人（定数20人以内）を委嘱（任期2年）して発足した。平成22年度委員は下表のとおりである。なお、平成22年度協議会は2回開催された。

- 第1回協議会 平成22年8月27日(金) 13:30～  
議題：①平成22年度事業実施状況について  
②常設展示の改修・プラネタリウム機器の更新について
- 第2回協議会 平成23年2月15日(火) 14:00～  
議題：①平成22年度下半期事業実施状況について  
②平成23年度事業計画案について

#### [四日市市立博物館協議会委員]

	氏名	職名
学校教育関係	井川和道	四日市市小学校長会代表
	加藤多可	四日市市中学校長会代表
	堀友子	四日市市公立幼稚園長会代表
	片岡一憲	私立学校代表
社会教育関係	奥村吉孝	四日市市自治会連合会代表
	岩田悦子	四日市市立博物館ボランティアの会代表（博物館）
	杉丸良夫	四日市市立博物館ボランティアの会代表（学習支援）
	伊藤秀一	四日市市立博物館ボランティアの会代表（天文）
学識経験者	石田昇三	四日市市文化財保護審議会代表
	山田正博	四日市萬古陶芸協会代表
	播磨良紀	四日市大学環境情報学部学部長
	豊田元子	三重日仏協会理事
	浅田英夫	天文研究者
	中川雅嗣	市政記者クラブ代表
※	北川佳代	四日市市PTA連絡協議会代表

※家庭教育の向上に資する活動を行う者

### 4 施設の利用

当館の施設の利用については、四日市市立博物館条例第5条により、特別展示室・講座室等を博物館の設置目的に反しない、博物館事業に支障のない範囲において、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものについて利用を許可している。平成22年度実績は、以下のとおりである。

#### [特別展示室]

- ・第33回墨友会書作展  
4月8日(木)～11日(日) 墨友会
- ・ファームタウン生徒作品展  
平成23年1月7日(金)～10日(月) ファームタウン
- ・第42回アート・フラワー研究グループ作品展  
平成23年3月30日(水)～4月3日(日) アート・フラワー研究グループ

[講座室]

- ・第46回日本下水道協会三重県支部総会及び研修会  
4月28日(水) 日本下水道協会三重県支部
- ・十七会平成22年度総会  
5月14日(金) 十七会
- ・歴史ゼミナール四日市第32期講座 歴史ゼミナール四日市  
5月22日、7月24日、9月25日、11月27日、平成23年1月22日、3月26日 各土曜日
- ・美術セミナー「川喜田半泥子のすべて展」について  
6月13日(日) 三重県立美術館友の会
- ・身近な遺跡のお話～21年度の発掘調査速報～(第15回発掘展関連行事)  
8月8日(日) 四日市市教育委員会社会教育課
- ・MOA美術館四日市児童作品展  
10月23日(土)～24日(日) MOA美術館四日市児童作品展実行委員会
- ・有島武郎研究会2010年秋季大会  
12月4日(土) 有島武郎研究会
- ・歴史講演会  
平成23年1月23日(日) 三重歴史研究会
- ・日本下水道協会三重県支部主管課長会議及び研修会  
平成23年2月25日(金) 日本下水道協会三重県支部

[市民ギャラリー]

- ・菜月展「心」  
5月8日(土)～9日(日) 三好秀康
- ・ペーパーキリング展2010  
6月8日(火)～13日(日) クラフト工房はんなり
- ・もとまち芸術予備校グリーンコース作品展  
7月9日(金)～11日(日) もとまち芸術予備校
- ・「第15回発掘展」～21年度の発掘調査速報～  
7月24日(土)～8月31日(火) 四日市市教育委員会社会教育課
- ・レインフォレストインヨッカイチ～森・水・いのち～ 磯野宏夫原画展  
10月13日(水)～26日(火) ㈱東海テクノ
- ・世界遺産写真展  
12月3日(金)～5日(日) 三田崇博
- ・もとまち芸術予備校グリーンコース作品展  
平成23年3月11日(金)～13日(日) もとまち芸術予備校
- ・四日市中日文化センター写真教室作品展  
平成23年3月20日(日)～27日(日) 中日文化センター写真教室
- ・人形教室展  
平成23年3月31日(木)～4月3日(日) 榎並孝子

5 年報の発行 第17号 A4 39頁 インターネットホームページで公開

6 利用状況 (4月1日～平成23年3月31日)

(1) 常設展観覧者数 (無料)

月	開館日数	小中		園児		他団体		小中以下	大人・高大	入館者計
		校	人数	園	人数	数	人数			
4	26	1	48	0	0	0	0	230	486	764
5	27	3	227	0	0	2	100	316	735	1,378
6	26	4	243	38	1,299	1	37	332	716	2,627
7	27	3	211	16	643	1	16	583	914	2,367
8	26	2	23	0	0	0	0	1,703	2,368	4,094
9	17	3	209	0	0	1	66	281	874	1,430
10	27	19	1,300	1	60	1	75	312	867	2,614
11	25	18	1,069	2	122	0	0	257	647	2,095
12	23	1	81	0	0	2	63	113	456	713
1	24	3	140	1	30	0	0	369	636	1,175
2	24	20	1,601	5	220	2	14	377	977	3,189
3	27	6	459	4	119	0	0	411	1,044	2,033
合計	299	83	5,611	67	2,493	10	371	5,284	10,720	24,479

(2) 特別展観覧者数

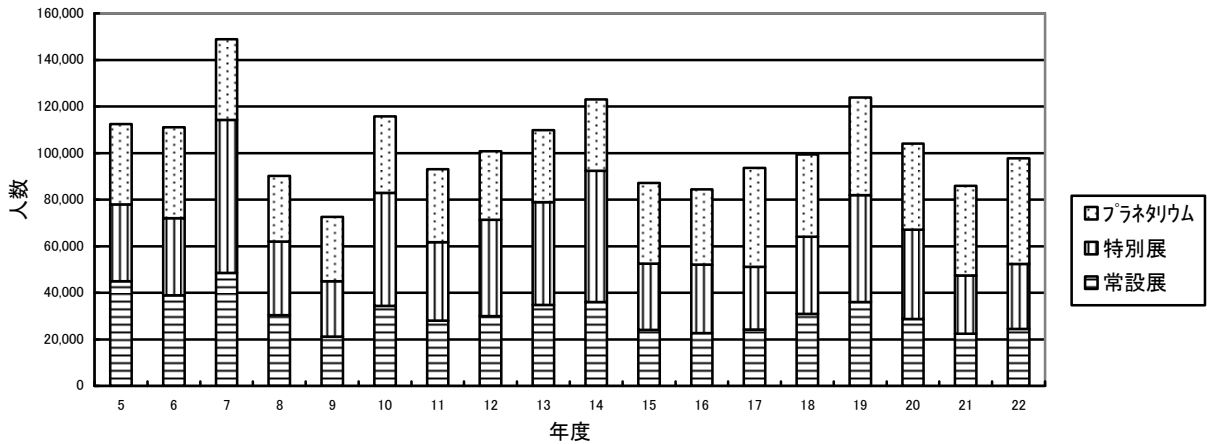
会期	有料観覧者									無料観覧者							観覧者計			
	個人		団体(割引)		減免(5割引)		減免(5割引)の団体	有料入館者計	小中		園児		他団体		小中以下	招待券		引率者	無料入館者計	
	一般	高大	一般	高大	一般	高大			一般	高大	校	人数	園	人数						数
①	45	544	36	47	1	21	0	0	649	3	227	1	39	2	100	220	493	0	1,079	1,728
②	41	3,009	118	412	8	119	1	0	3,667	4	255	0	0	2	98	2,549	2,814	0	5,716	9,383
③	26	1,447	119	300	13	44	1	0	1,924	20	1,417	5	161	1	75	728	873	0	3,254	5,178
④	43	1,228	109	267	15	49	0	0	1,668	13	873	2	91	2	63	1,018	697	0	2,742	4,410
⑤	40	1,727	29	170	0	62	1	0	1,989	45	3,109	11	409	3	73	1,011	613	0	5,215	7,204
合計	195	7,955	411	1,196	37	295	3	0	9,897	85	5,881	19	700	10	409	5,526	5,490	0	18,006	27,903

- ①江戸の文様 萬古の色展
- ②ひめゆり平和への祈り展
- ③2010 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展
- ④サンデー・マガジンのDNA展
- ⑤なつかしい暮らし展

(3) プラネタリウム観覧者数

月	放映回数	有料観覧者																							観覧者合計		
		個人			団体割引(2割引)			減免(5割引)			減免(5割引)の団体			特別放映	有料入館者計	小中		園児		他団体		幼児	招待券	引率者		特別放映	無料入館者計
		一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中			校	人数	園	人数	数	人数						
4	63	352	10	277	58	1	16	20	0	3	0	0	0	0	737	1	88	0	0	0	0	198	126	0	0	412	1,149
5	80	507	30	322	147	4	62	43	3	14	0	0	0	0	1,132	1	65	0	0	0	0	201	217	8	0	491	1,623
6	83	664	22	433	121	1	108	49	2	7	1	0	1	152	1,561	2	75	61	2,219	1	37	349	200	0	9	2,889	4,450
7	98	1,110	37	880	178	3	285	44	1	14	5	0	1	311	2,869	3	996	26	1,251	1	16	607	262	3	7	3,142	6,011
8	105	2,032	105	2,160	330	11	566	76	6	38	10	0	10	155	5,499	2	2,724	0	0	0	0	965	896	4	30	4,619	10,118
9	46	532	28	324	82	1	35	31	0	6	0	0	0	0	1,039	3	153	0	0	0	0	287	261	0	0	701	1,740
10	92	585	35	403	170	9	869	34	2	4	0	0	0	0	2,111	9	748	4	214	1	59	255	212	66	0	1,554	3,665
11	86	372	31	289	75	3	592	38	0	8	0	0	1	0	1,409	15	1,335	3	147	0	0	173	82	48	0	1,785	3,194
12	76	2,000	116	922	359	14	215	58	1	11	42	0	0	296	4,034	4	380	1	56	2	63	296	98	10	40	943	4,977
1	75	877	44	499	267	7	128	55	1	9	26	0	0	0	1,913	5	292	2	159	0	0	345	205	0	27	1,028	2,941
2	73	488	21	237	172	3	69	42	3	3	0	0	0	17	1,055	11	890	9	422	2	61	345	86	2	18	1,824	2,879
3	83	719	42	404	127	11	102	39	4	9	0	0	0	0	1,457	4	209	7	233	0	0	577	176	7	0	1,202	2,659
合計	960	10,238	521	7,150	2,086	68	3,047	529	23	126	84	0	13	931	24,816	60	7,955	113	4,701	7	236	4,598	2,821	148	131	20,590	45,406

(4) 観覧者数推移



年度(平成)	5	6	7	8	9	10	11	12	13
常設展	44,996	38,881	48,481	30,359	21,142	34,411	28,052	29,966	34,758
特別展	32,961	33,209	65,681	31,700	23,804	48,442	33,733	41,432	44,082
プラネタリウム	34,515	38,966	34,674	28,068	27,661	32,937	31,234	29,317	31,011
合計	112,472	111,056	148,836	90,127	72,607	115,790	93,019	100,715	109,851
累計	112,472	223,528	372,364	462,491	535,098	650,888	743,907	844,622	954,473
	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	36,058	24,093	22,626	24,171	30,978	36,001	28,781	22,399	24,479
	56,309	28,413	29,498	26,940	33,098	45,980	38,347	24,956	27,903
	30,689	34,591	32,333	42,519	35,264	41,926	36,900	38,538	45,406
	123,056	87,097	84,457	93,630	99,340	123,907	104,028	85,893	97,788
	1,077,529	1,164,626	1,249,083	1,342,713	1,442,053	1,565,960	1,669,988	1,755,881	1,853,669

## 7 関係法規

四日市市立博物館条例

平成5年3月30日条例第16号

改正

平成9年3月27日条例第3号

平成12年3月29日条例第44号

平成16年12月28日条例第55号

平成17年3月28日条例第22号

平成18年10月5日条例第45号

平成21年1月23日条例第1号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2及び博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第18条の規定に基づき、博物館の設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 本市は、自然科学及び人文科学に関する資料を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供するとともに、プラネタリウムによる天体運行等の映写を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、四日市市立博物館(以下「博物館」という。)を四日市市安島一丁目3番16号に設置する。

(事業)

第3条 博物館は、前条の設置目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、美術工芸、天文等に関する実物、複製、複写、模型、図書、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、展示し、及び利用に供すること。
- (2) 博物館資料の利用者に対する説明、助言及び指導に関すること。
- (3) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- (4) 博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究に関すること。
- (5) 博物館資料に関する解説書、目録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 博物館資料に関する講演会、研究会等を開催すること。
- (7) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
- (8) 他の博物館、図書館、学校その他関係機関との連絡及び協力に関すること。
- (9) プラネタリウムによる天体運行等の映写及び天体観測の指導に関すること。
- (10) その他必要な事業  
一部改正〔平成21年条例1号〕

(観覧料)

第4条 博物館特別展示を観覧しようとする者及びプラネタリウムの映写を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、心身障害者で、受付において身体障害者手帳、療育手帳又はこれらに代わるものを提示したものの観覧料の額は、別表第2に定める額とする。

一部改正〔平成16年条例55号・18年45号〕

(特別展示室等の使用)

第5条 四日市市教育委員会(以下「委員会」という。)は、第2条の設置目的に反せず、第3条の事業に支障のない範囲内において、展示発表等のため、博物館の特別展示室、講座室及び市民ギャラリー(以下「特別展示室等」という。)の使用を許可することができる。

2 前項の規定により、特別展示室等を使用しようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

3 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める使用料を規則で定める期限までに納付しなければならない。

一部改正〔平成16年条例55号・17年22号〕

(特別利用の許可等)

第6条 博物館資料の熟覧、模写、模造、撮影等しようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、2,100円の範囲内において規則に定める手数料を納付しなければならない。

一部改正〔平成16年条例55号〕

(館外貸出し)

第6条の2 博物館資料は、次の各号のいずれかに該当するときは、館外への貸出しをしない。ただし、委員会は、他の博物館、図書館、学校等適当と認めたものについて、博物館資料の館外貸出しを許可することができる。

(1) 館外貸出しによって博物館資料の保存に影響を及ぼすおそれがあると委員が認めたとき。

(2) 現に博物館資料が展示されているとき。

(3) その他委員会が博物館資料の館外貸出しをすることを不相当と認めたとき。

(入館等の制限)

第7条 委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、博物館への入館を拒否し、若しくは退館を命じ、又は第5条第2項及び第6条第1項の許可をしない。

(1) 公安、風俗その他公益を害するおそれがあるとき。

(2) 施設、附属設備等を損傷するおそれがあるとき。

(3) その他委員会において管理上支障があると認めたとき。

(観覧料、使用料及び手数料の減免)

第8条 市長は、特に必要があると認めたときは、観覧料、使用料及び手数料を減額又は免除することができる。

(観覧料、使用料及び手数料の還付)

第9条 既納の観覧料、使用料及び手数料は、還付しない。ただし、市長が特別の事由があると認めたときは、その全部又は一部を還付することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第10条 第5条第2項、第6条第1項及び第6条の2の規定により許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、その権利を他に譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の取消し等)

第11条 委員会は、使用者が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、許可の条件を変更し、又は使用若しくは利用を停止し、若しくは許可を取り消すことができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 許可の条件に違反したとき。

- (3) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (4) その他委員会において特に必要があると認めたととき。

(特別の設備等)

第12条 使用者は、既存の設備を変更し、又は特別の設備を使用しようとするときは、あらかじめ委員会の承認を受けなければならない。

(原状回復の義務)

第13条 使用者は、その使用若しくは利用を終了したとき又は第11条の規定により使用若しくは利用を停止され、若しくは許可を取り消されたときは、直ちに原状に回復しなければならない。

2 使用者が前項の義務を履行しないときは、委員会においてこれを執行し、使用者からその費用を徴収する。

(損害賠償)

第14条 使用者は、使用若しくは利用中に建物、附属設備等を損傷又は滅失したときは、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、市長が特別の事由があると認めたとときは、その全部又は一部を免除することができる。

(博物館協議会)

第15条 博物館の運営に関し、館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、法第20条第1項の規定に基づき、博物館に四日市市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、委員会が任命する。

3 協議会の委員の定数は、20人以内とする。

4 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

一部改正〔平成21年条例1号〕

(委任)

第16条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

一部改正〔平成16年条例55号〕

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成5年4月1日から施行する。ただし、第3条第1号(博物館資料の展示及び利用に供する部分に限る。)、第2号及び第8号並びに第4条から第14条までの規定は規則で定める日から(平成5年6月四日市市規則第33号で、同5年11月1日から施行)、次項の規定は平成5年9月1日から施行する。

(四日市市立郷土資料館条例の廃止)

2 四日市市立郷土資料館条例(昭和45年四日市市条例第38号)は、廃止する。

附 則(平成9年3月27日条例第3号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月29日条例第44号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成16年12月28日条例第55号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成17年2月7日から施行する。

(経過措置)

7 改正後の四日市市立博物館条例第4条、別表第1及び別表第2の規定は平成17年4月1日以後の観覧から、第5条、第6条及び別表第3の規定は平成17年4月1日以降の使用許可申請に係るものから適用する。

附 則(平成17年3月28日条例第22号)

(施行期日)

1 この条例は、平成17年4月1日(以下「施行日」という。)から施行する。

(経過措置)

2 改正後の四日市市立博物館条例別表第3備考の規定は、施行日以後の申請にかかるものから適用し、同日前の申請にかかるものについては、なお従前の例による。

附 則(平成18年10月5日条例第45号)

この条例は、平成18年12月9日から施行する。

附 則(平成21年1月23日条例第1号)

この条例は、公布の日から施行する。

別表第1(第4条関係)

区分	博物館特別展示 1人1回につき	プラネタリウム1 人1回につき	プラネタリウム 特別番組1人1 回につき
一般	2,100円の範囲 内で委員会が定 める額	530円	2,100円の範囲 内で委員会が 定める額
大学生・高 校生		370円	
中学生・小 学生	無料	200円	

備考

1 「一般」とは、15歳以上の者(「大学生・高校生」及び中学校又はこれに準ずる学校に在学する者を除く。)をいう。

2 「大学生・高校生」とは、大学、短期大学、高等学校、高等専門学校、専修学校、各種学校その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。

3 「中学生・小学生」とは、中学校、小学校その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。

4 小学校就学までの者は、無料とする。

5 20人以上の団体は、1人1回につき規定料金の100分の80の額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

一部改正〔平成16年条例55号・18年45号〕

別表第2(第4条関係)

区分	博物館特別展示 1人1回につき	プラネタリウム1 人1回につき	プラネタリウム 特別番組1人1 回につき
一般	1,050円の範囲 内で委員会が定 める額	250円	1,050円の範囲 内で委員会が 定める額

大学生・高校生		180 円	
中学生・小学生	無料	100 円	

備考

- 「一般」とは、15 歳以上の者（「大学生・高校生」及び中学校又はこれに準ずる学校に在学する者を除く。）をいう。
- 「大学生・高校生」とは、大学、短期大学、高等学校、高等専門学校、専修学校、各種学校その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。
- 「中学生・小学生」とは、中学校、小学校その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。
- 小学校就学までの者は、無料とする。
- 20 人以上の団体は、1人1回につき規定料金の 100 分の 80 の額とする。この場合において、その額に 10 円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。  
追加〔平成 16 年条例 55 号〕、一部改正〔平成 18 年条例 45 号〕

別表第3(第5条関係)

区分	午前	午後	全日
	午前9時 30 分 から正午まで	午後1時から午 後5時まで	午前9時 30 分 から午後5時 まで
特別展示室	—	—	31,500 円
講座室	8,400 円	12,600 円	21,000 円
市民ギャラリー	—	—	2,100 円

備考 使用者が観覧料、受講料その他これらに類するものを徴収する場合は、上記の金額に 100 分の 50 を乗じて得た額を加算する。

一部改正〔平成 16 年条例 55 号・17 年 22 号〕

四日市市立博物館条例施行規則  
平成5年3月 31 日教委規則第5号

改正

平成9年3月 28 日教委規則第9号  
平成 11 年3月 11 日教委規則第4号  
平成 12 年3月 27 日教委規則第7号  
平成 14 年 12 月 27 日教委規則第 11 号  
平成 17 年2月3日教委規則第 31 号

(趣旨)

第1条 この規則は、四日市市立博物館条例(平成5年四日市市条例第 16 号。以下「条例」という。)第 16 条の規定に基づき、条例の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 四日市市立博物館(以下「博物館」という。)の開館時間は、午前9時 30 分から午後5時までとする。ただし、四日市市教育委員会(以下「委員会」という。)が特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。  
一部改正〔平成 17 年教委規則 31 号〕

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、委員会が特に必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日に当たるときは、その翌日とする。
- 12 月 29 日から翌年1月3日まで  
一部改正〔平成 14 年教委規則 11 号〕

(観覧の手続)

第4条 博物館資料の展示会場に入場しようとする者及びプラネタリウムの映写を観覧しようとする者は、観覧料の納入の際に観覧券の交付を受け、展示室及びプラネタリウム室の入口においてこれを係員に提示又は提出しなければならない。

(使用許可の申請)

第5条 条例第5条第2項の規定により、特別展示室等の使用の許可を受けようとする者は、四日市市立博物館使用許可申請書(第1号様式。以下「申請書」という。)により委員会に申請しなければならない。

- 前項の申請の受付は、使用しようとする日(引き続き2日以上使用しようとする場合は、その最初の日をいう。以下「使用日」という。)の属する月の初日前6月からとする。
- 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、前項に定める期間前に受付できるものとする。
  - 四日市市又は委員会が行う事業又は主催する行事に使用するとき。
  - その他委員会が特に必要があると認めるとき。
- 第1項に規定する申請書の受付時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、休館日の受付は行わない。

(使用の許可)

第6条 委員会は、前条第1項の使用許可の申請について適当と認めるときは、使用の許可を決定し、四日市市立博物館使用許可書(第2号様式。以下「許可書」という。)を申請者に交付するものとする。

- 博物館の使用について許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、博物館使用の際に、前項の許可書を係員に提示し、指示を受けなければならない。



(使用の変更及び取消し)

第7条 使用者は、許可書に記載された事項を変更し、又は施設の使用を取り消そうとするときは、四日市市立博物館使用変更(取消)許可申請書(第3号様式)に許可書を添えて委員会に提出しなければならない。

2 委員会は、前項の規定により使用の変更又は取消しを許可したときは、四日市市立博物館使用変更(取消)許可書(第4号様式。以下「変更(取消)許可書」という。)を申請者に交付するものとする。

一部改正〔平成17年教委規則31号〕

(附属設備の名称及び使用料の額)

第8条 博物館の附属設備の使用料の額は、別表第1に定める額とする。

一部改正〔平成17年教委規則31号〕

(使用料の納付)

第9条 使用者は、使用の許可と同時に使用料を納付しなければならない。

2 官公署が使用する場合にあっては、前項の規定にかかわらず、別に納付期限を定めることができるものとする。

(観覧料の減免)

第10条 条例第8条の規定に基づく観覧料の減額又は免除の範囲は、次のとおりとする。

(1) 四日市市及び三重郡に所在する学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する小学校、中学校の児童、生徒が学校教育の一環として教職員に引率されて常設展示、プラネタリウム及び特別展示を観覧するとき。10割

(2) 博物館が開催する特別展示を観覧料を納付して観覧したものが、引き続き常設展示を観覧するとき。10割

(3) その他委員会が特別の事由があると認めたとき。その都度委員会が定める割合

2 前項の場合において、減額後の額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

3 第1項第1号に定める観覧料の減免を受けようとする者は、四日市市立博物館観覧料減免申請書(第5号様式)に、減免を必要とする理由を記し、委員会に申請しなければならない。

一部改正〔平成17年教委規則31号〕

(優待券等)

第11条 委員会が特に必要と認めたときは、優待券、招待券及び特別展示前売観覧券を発行することができる。

(使用料の還付)

第12条 条例第9条ただし書の規定により使用料を還付する場合及び還付する額は、次に掲げるとおりとする。

還付する場合	還付する額
ア 災害等特別の事由により、使用者の責めによらない場合において使用できなかったとき。	使用料の全額
イ 使用者が使用日の前7日以前に使用許可の取消しを申請し、許可されたとき。	既納の使用料から取消料(使用料から消費税及び地方消費税に相当する額を除いた額の100分の50に相当する額。ただし、10円未満の端数が生じた場合は、これを四捨五入した額とする。)を差し引いた額

2 使用者が第7条の規定により博物館の使用の変更を許可された場合において、既納の使用料に過納金が生じたときは、これを還付するものとする。

3 前2項の規定により使用料の還付を受けようとする者は、四日市市立博物館使用料還付申請書(第6号様式)に第1項表アの場合にあっては許可書と使用料領収書、同項表イ及び前項の場合にあっては変更(取消)許可書と使用料領収書を添えて委員会に申請しなければならない。

4 委員会は、前項の申請を受理し、還付を決定したときは、四日市市立博物館使用料還付決定通知書(第7号様式)を申請者に交付するものとする。

一部改正〔平成17年教委規則31号〕

(使用者の遵守事項)

第13条 博物館に入館する者、使用者及び条例第6条第1項の規定により許可を受けた者(以下「使用者等」という。)は、条例及びこの規則に定めるもののほか、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 使用を許可されていない施設を使用し、又は立ち入らないこと。

(2) 所定の場所以外で喫煙し、又は火気を使用しないこと。

(3) 許可を受けずに張り紙をし、又はくぎ類を打ち、建物その他の物品をき損又は汚損するおそれのある行為をしないこと。

(4) 騒音を発し、暴力を用いるなど他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。

(5) その他委員会が定める事項及び係員の指示に従うこと。

(職務上の立入り)

第14条 使用者等は、係員の職務上の立入りを拒んではならない。

(施設等の損傷の届出)

第15条 使用者等は、施設、附属設備等を損傷又は滅失したときは、直ちに理由を付して委員会に届け出なければならない。

(使用後の届出及び点検)

第16条 使用者等は、条例第13条の規定により施設、設備等を原状に復したときは、速やかに委員会に届け出るとともに、その点検を受けなければならない。

(特別利用の許可の申請)

第17条 条例第6条第1項の規定に基づき、特別利用の許可を受けようとするものは、四日市市立博物館資料特別利用許可(減免)申請書(第8号様式)を委員会に提出しなければならない。

2 委員会は特別利用の許可をしたときは、四日市市立博物館資料特別利用許可書(第9号様式)を交付するものとする。

3 四日市市立博物館資料特別利用許可書の交付を受けたものは、直ちに条例第6条第2項に基づく手数料を納付しなければならない。

4 前項に定める手数料の額は、別表第2に定める額とする。

一部改正〔平成17年教委規則31号〕

(手数料の減免)

第18条 条例第8条の規定に基づく手数料の減額又は免除の範囲は、次のとおりとする。

(1) 市、県又は国若しくは他の地方公共団体が行う教育、学術若しくは文化の事業又はこれらの事業の普及の用途に供することを目的とするとき。10割

(2) 私立の博物館、図書館、学校等が行う教育又は研究の用途に供することを目的とするとき。10割

- (3) 主に学術研究の用途に供することを目的とするとき。10割
- (4) その他委員会が特別の事由があると認めるとき。その都度委員会が定める割合
- 2 前項の場合において、減額後の額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。
- 3 第1項に定める使用料の減免を受けようとする者は、四日市市立博物館資料特別利用(減免)申請書(第8号様式)に、減免を必要とする理由を記し、委員会に申請しなければならない。
- 一部改正〔平成17年教委規則31号〕

(特別利用の制限)

第19条 次の各号のいずれかに該当するときは、特別利用の許可をしない。

- (1) 特別利用によって博物館資料の保存に影響を及ぼすおそれがあると委員会が認めるとき。
- (2) 現に博物館資料が展示されているとき。
- (3) 寄託された博物館資料で寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) 著作権がある博物館資料で作者の承諾を得ていないとき。
- (5) その他委員会が特別利用をすることが不相当と認めるとき。

(館外貸出しの許可等)

- 第20条 条例第6条の2ただし書きの規定により、博物館資料の館外貸出しを受けようとするものは、あらかじめ四日市市立博物館資料館外貸出許可申請書(第10号様式)を委員会に提出し、その許可を受けなければならない。
- 2 委員会は、博物館資料の館外貸出しを認めた場合は、四日市市立博物館資料館外貸出許可書(第11号様式)を交付するものとする。
- 3 博物館資料の館外貸出しの期間は、1月以内とする。ただし、委員会が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(協議会の委員長及び副委員長)

- 第21条 条例第15条に規定する四日市市立博物館協議会(以下「協議会」という。)に、委員長及び副委員長を置き、それぞれ委員の互選によって選出する。
- 2 委員長及び副委員長の任期は、委員としての在任期間とする。
- 3 委員長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

- 第22条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、定例会及び臨時会とし、定例会は、年2回、臨時会は必要に応じて開催する。
- 2 会議は、委員長が召集し、委員長がその議長となる。
- 3 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。
- 4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第23条 協議会の庶務は博物館において処理する。

(補則)

第24条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

一部改正〔平成17年教委規則31号〕

附則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。ただし、第2条から第20条までの規定は、条例附則ただし書きに規定する規則で定める日から、次項の規定は、平成5年9月1日から施行する。
- (四日市市立郷土資料庫条例施行規則の廃止)
- 2 四日市市立郷土資料庫条例施行規則(昭和45年四日市市教育委員会規則第5号)は、廃止する。

附則(平成9年3月28日教委規則第9号)

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附則(平成11年3月11日教委規則第4号)

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附則(平成12年3月27日教委規則第7号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附則(平成14年12月27日教委規則第11号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附則(平成17年2月3日教委規則第31号)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成17年2月7日から施行する。ただし、四日市市立博物館条例施行規則第2条の改正は、平成17年4月1日から施行する。
- (経過措置)
- 2 改正後の四日市市立博物館条例施行規則第8条、第12条、第17条、第18条、別表第1及び別表第2の規定は、平成17年4月1日以後の使用又は利用許可申請に係るものから適用する。

別表第1(第8条関係)

区分	使用料(一回一式)
16ミリ映写機	2,100円
スライド映写機	1,050円
プロジェクター	1,050円

一部改正〔平成17年教委規則31号〕

別表第2(第17条関係)

区分	手数料(一点一日)
熟覧	320円
模写	1,050円
拓本	1,050円
撮影	1,050円

一部改正〔平成17年教委規則31号〕

### Ⅲ 施設概要

所在地 〒510-0075

三重県四日市市安島一丁目3番16号

電話 059-355-2700(代)

FAX 059-355-2704

施設規模	敷地面積	1,845.840 m <sup>2</sup>
	建設面積	1,590.397 m <sup>2</sup>
	延床面積	10,147.108 m <sup>2</sup>
	建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
		地下2階地上6階
	建物の高さ	38.075m
	建物イメージ	歴史(石を用いた古典的な様式)
		現代(石、土ものの自然素材と金属、ガラスなどの組み合わせによる新旧共存)
		未来(金属板の仕上げ =プラネタリウム)
	色彩イメージ	
	1階	海 青
	2階	大地 橙
	3階	草花 黄
	4階	山脈 緑
	5階	空(宇宙) シルバーメタリック
	地域・商区	
		商業地域・防火地域
		建ぺい率100%(耐火)、容積率600%

#### 主な室名と面積

●展示・教育部門		2,156.155 m <sup>2</sup>
常設展示室	2階	564.691 m <sup>2</sup>
〃	3階	454.618 m <sup>2</sup>
特別展示室	4階	594.798 m <sup>2</sup>
ラウンジ	2～4階	281.02 m <sup>2</sup>
情報コーナー	1階	118.81 m <sup>2</sup>
講座室	1階	142.218 m <sup>2</sup>
●収蔵部門		1,256.23 m <sup>2</sup>
第1収蔵庫	地下2階	243.29 m <sup>2</sup>
〃 前室	地下2階	38.88 m <sup>2</sup>
第2収蔵庫(恒温恒湿)	地下1階	282.17 m <sup>2</sup>
第3収蔵庫	地下1階	384.496 m <sup>2</sup>
〃 前室	地下1階	76.086 m <sup>2</sup>
荷解室	1階	231.308 m <sup>2</sup>
●研究部門		430.207 m <sup>2</sup>
作業室	2階	60.464 m <sup>2</sup>
資料整理室	地下1階	84.37 m <sup>2</sup>
文献資料室	3階	37.952 m <sup>2</sup>
資料評価室	4階	33.3 m <sup>2</sup>
燻蒸室	地下1階	43.07 m <sup>2</sup>
スタジオ暗室	地下1階	87.51 m <sup>2</sup>
ビデオ編集室	地下1階	16.882 m <sup>2</sup>
第2会議室	4階	37.952 m <sup>2</sup>
第3会議室	3階	28.707 m <sup>2</sup>
●プラネタリウム部門		1,714.282 m <sup>2</sup>
客席(ドーム)	5・6階	565.017 m <sup>2</sup>
天文学習室	5階	59.081 m <sup>2</sup>

天文展示コーナー	5階	194.763 m <sup>2</sup>
天文係事務室	5階	59.326 m <sup>2</sup>
空調機械室	5・6階	836.095 m <sup>2</sup>
●管理・一般部門		4,590.234 m <sup>2</sup>
事務室	3階	105.059 m <sup>2</sup>
館長室	2階	37.001 m <sup>2</sup>
第1会議室	2階	50.422 m <sup>2</sup>
ミュージアムショップ	1階	28.723 m <sup>2</sup>
警備室	1階	20.812 m <sup>2</sup>
中央監視室	地下2階	44.064 m <sup>2</sup>
設備機械室	地下2階	486.190 m <sup>2</sup>
電気室、発電機室	地下2階	240.152 m <sup>2</sup>
倉庫、展示備品庫など		3,577.811 m <sup>2</sup>

#### プラネタリウム(1,714 m<sup>2</sup>)

ドーム径18.5m 傾斜型(斜度20度) 164席  
 GSSヘリオス(五藤光学研究所)  
 7.4等星 25,000個の恒星が投影可能  
 分離型惑星投映機 9台  
 スカイライン投映機(80+80シーン)  
 マルチイメージシステム  
 マルチサウンドシステム  
 全天周映画 可能  
 アストロビジョン70(10パーフォーレーション)  
 プラネタリウムとの同期可能(ショートフィルム)

#### 主な施工業者

建築	(株)鴻池組 三菱建設(株) 丸藤建設(株)
電気	(株)電工社 四日市電機(株)
設備機械	須賀工業(株) ダイダマン(株) 三東工業所
プラネタリウム	(株)五藤光学研究所
建築設計	(株)石本建築事務所
展示設計	(有)ササキ企画
展示	商工美術(株)
展示映像	中部松下システム(株)
ハイビジョン	中部松下システム(株)
陶壁	萬古環境造形体

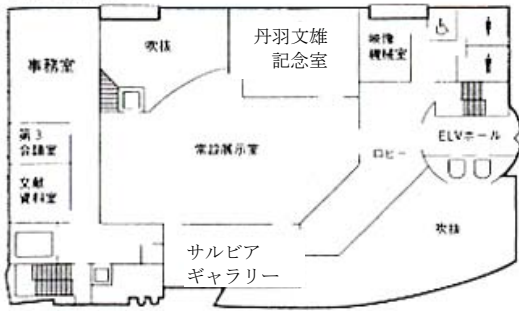
#### 設備概要

●空調設備	
1. 空調熱源機器設備	
①スクリーン冷凍機	
(冷房能力293,000Kcal/h[97URST])	
暖房能力254,000Kcal/h)	2基
②スクリーン冷凍機用空気熱交換機	2基
送風機(低騒音型3,400 m <sup>3</sup> /min)	3台
③蓄熱槽	
2. 空調、換気及び排煙機器設備	
①空調機	
エアーハンドリングユニット	9基
パッケージ型空調機	30基
ファンコイルユニット	20基
全熱交換機	5基
②送、排風機	
シロッコファン	2基
軸流ファン	8基
ラインファン	13基

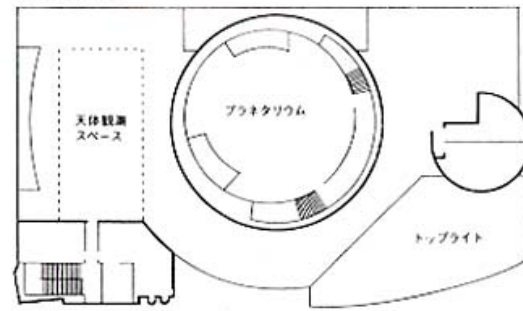
消音ボックス付ラインファン	20 基	CCD	1 台
デリベントファン	1 基	モニターテレビ	5 台
排煙ファン	3 基	③防火扉	47 箇所
排煙口	25 基	④防火・防炎シャッター	32 箇所
3. その他機器		⑤排煙口	28 箇所
①フィルターユニット		●電気設備	
外気新鮮空気処理ユニット	3 基	①受電電圧 交流 3 相 3 線式 660V 60Hz	
②消音マフラーユニット	9 基	②変圧器	
③その他付属設備	一式	動力用	
4. 空調配管設備		3 相 6.6KV/210V 300KVA	1 台
①空調用ポンプ	14 基	3 相 6.6KV/210V 500KVA	1 台
②冷温水 2 次ポンプ可変速制御盤	1 基	3 相 6.6KV/210V 150KVA	2 台
③冷水ヘッダー	2 基	3 相 6.6KV/440V 500KVA	1 台
④温水ヘッダー	2 基	電灯用	
⑤冷温水用防蝕装置	4 基	1 相 6.6KV/210V/105V 300KVA	2 台
⑥その他付属設備	一式	1 相 6.6KV/210V/105V 100KVA	1 台
●給排水衛生設備		③自家用発電機	
1. 給水設備		6 気筒 4 サイクルディーゼル機関	
①ポンプ 揚水ポンプ	2 基	480Ps 1200rpm	1 台
②受水槽 有効容量 12.7 m <sup>2</sup>		3 相交流同期発電機 400KVA 6600V	1 台
(2 分割-複合盤)	1 基	④電線路電圧 6600V 440V 210V 105V	
③高架水槽 有効容量 6.3 m <sup>2</sup>		⑤電気室 高低圧配電盤	19 面
(2 分割-SUS444) 保温	1 基	動力制御盤	15 面
④電機湯沸器 貯湯量 10 ㎥	3 基	電灯分電盤	21 面
⑤ウォータークーラー		端子盤	12 面
壁埋込式、ステンレス製	2 基	⑥低圧回路	
冷水能力 301/㎥		⑦低圧負荷設備	
⑥その他付属設備	一式	電動機合計容量 1,123.023KW	130 台
2. 排水設備		電灯コンセント合計容量 476KVA	2,115 個
公共下水道接続箇所		⑧直流電源装置	
①湧水排水ポンプ	6 基	100V 非常照明用 発電設備機器操作用	
②雑水排水ポンプ	2 基	全自動サイリスター式整流器	
③雨水排水ポンプ	2 基	(入力 交流 3 相 200V 60Hz	
●燻蒸設備(真空殺虫殺菌装置)	3.15 m <sup>2</sup>	直流出力電流 50A 3 相全波整流)	1 面
●消防設備		蓄電池 ペースト式高率放電用鉛蓄電池	
①屋内消火栓ポンプ	1 基	2V×54 セル	
②屋内消火栓設備		⑨交流無停電電源装置	
屋内消火栓箱	12 基	100V 中央監視装置用	
屋内消火栓箱(併設型)	4 基	商用同期常時インバーター給電方式	
③連結散水設備 閉鎖型(8 系統)	一式	(交流入出力 単相 2 線式 100V 60Hz	
④ハロン消火設備 7 系統		出力容量 5KVA)	
(特別展示室、第 1・2・3 収蔵庫、		⑩電気時計 水晶発信式 6 回路	
前室、電気室、発電機室)	一式	親時計 1 台 子時計 41 台	
⑤救助袋 3-5 階	6 台	⑪放送設備 防災アンプ 480W	20 回路
⑥自動火災報知設備		⑫電話設備 デジタル電子交換機	一式
差動スポット感知器	6 個	多機能電話機	15 台
定温スポット感知器	14 個	一般電話機	37 台
煙感知器	384 個	⑬テレビ共聴設備 CATV 引込(CTY)	
炎感知器	4 個	⑭中央監視設備	
⑦非常放送設備	一式	SAVIC-NET50 による監視システム	
⑧消火器	38 本	●エレベータ	
⑨誘導灯設備 避難口誘導灯	54 台	1.2 号 乗用(展望用) 定員 17 名 1150Kg 90m/分	
通路誘導灯	39 台	3 号 乗用 定員 11 名 750Kg 105m/分	
客席誘導灯	22 台	4 号 人荷用 定員 67 名 4400Kg 30m/分	
⑩その他付属設備		5 号 乗用 定員 11 名 750Kg 30m/分	
●防犯設備		●その他設備 昇降リフト(2 号、荷解室)	1 台
①防犯設備 熱感センサー	46 個	ゴンドラ(ガラス清掃用)	2 台
②監視カメラ 1-4 階 カラードーム型	16 台	自動扉	4 箇所

館内見取図

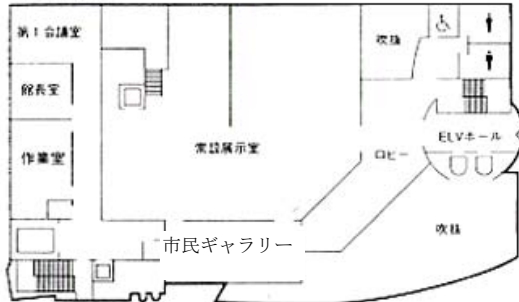
3階平面図



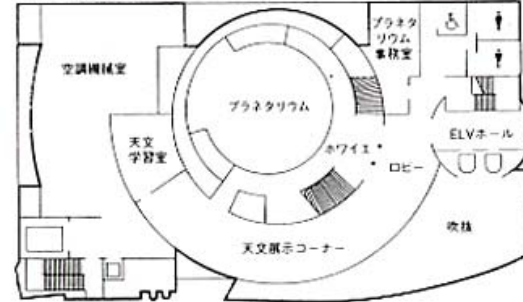
6階平面図



2階平面図



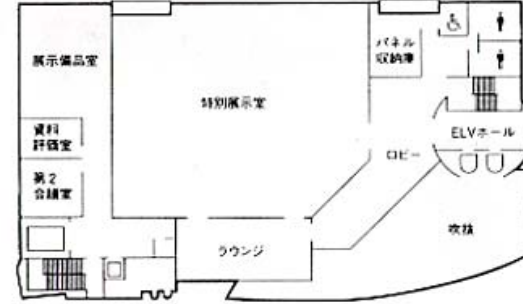
5階平面図



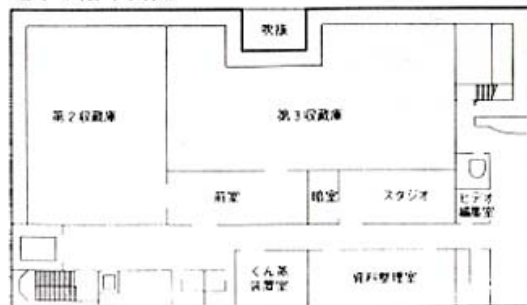
1階平面図



4階平面図



地下1階平面図



地下2階平面図



## ●設計概要

敷地は、旧四日市工業高等学校跡地の一角で、街区には、都市公園を介して地場産業振興センター、アムスクエア(現ララスクエア)などがあり、それらとの調和を図る必要があった。そこで、形態的には都市公園を介してオープンなアトリウムで呼応しあう関係を生み出し、色調的にはアムスクエアのグレイッシュピンクと補色関係にあり、色の映える淡緑青色を基調としている。

外観デザインとしては、博物館とプラネタリウムという複合した機能を持つ建物の性格上、「過去」(歴史)、「現在」(宇宙)の調和をテーマとしている。そのことは、基壇部において花崗岩のジェットバーナー仕上げで歴史の積層をイメージし、胴部において割肌タイルにより工業化が進んだ現代だからこそ逆に求められる手造りのあたたかさ、やさしさを表現し、頂部においてステンレスの球体を一部露出させ、未来的、宇宙的なイメージを喚起して、それらの三層構成による対比と調和を図っている。また、都市公園に面する東側はポリウレムの大きさからくる威圧感を低減するために、面を分節化し、水平線を強調したガラスのカーテンウォール、地上の緑が階段状に延長した濃緑色の石貼部、太陽光線をイメージした黄色の垂直線、コンビナートのメタファーとしての金属のパイプや球体により、リズムカルで変化のある構成としている。

内部機能構成としては、地下部分に収蔵部門、1階にエントランス、2～4階に博物館部門、5、6階にプラネタリウム部門を収め、地上部分に5層吹抜のアトリウムを設けることにより積層化した施設の空間的な一体感を生み出す計画としている。また、都市公園に対してオープンな構成とし、それを借景として利用することで空間的な広がりを持たせている。  
(石本建築事務所)

## IV 利用案内

### ●博物館を彩る施設(無料利用できる部分)

#### □エントランスホール(1階)

入口を入ると5階まで吹き抜けているアトリウムとシースルーエレベータが目を引きまします。ここは誰でも入れる自由空間。待ち合わせに最適な場所です。

#### □情報コーナー(1階)

4台のモニターで、四季にわたり四日市各地に伝わる伝承行事を入館者が自由に見ることができます。また、歴史・自然・美術工芸などの書籍も自由に閲覧できます。

#### □ミュージアムショップ(1階)

来館の思い出となる記念品や、市・博物館が刊行する図録等の書籍を販売。鉱物や化石、星座グッズなども取りそろえています。

#### □陶壁(2階ロビー)

四日市市の歴史、美術資料の展示効果と現代建築における陶の材質美との調和を図るため、通路を歩く人の動きとともに画面が変化する一種のだまし絵的效果を意図した。(高さ2.5m 幅5.0m)

A面: 歌川広重作 東海道五十三次「四日市の図」

B面: 歌川國貞作 末広五十三次「蜃気楼の図」

これらを四日市萬古焼の伝統技法により焼成。

制作: 萬古環境造形体

#### □常設展示室(2階・3階)

